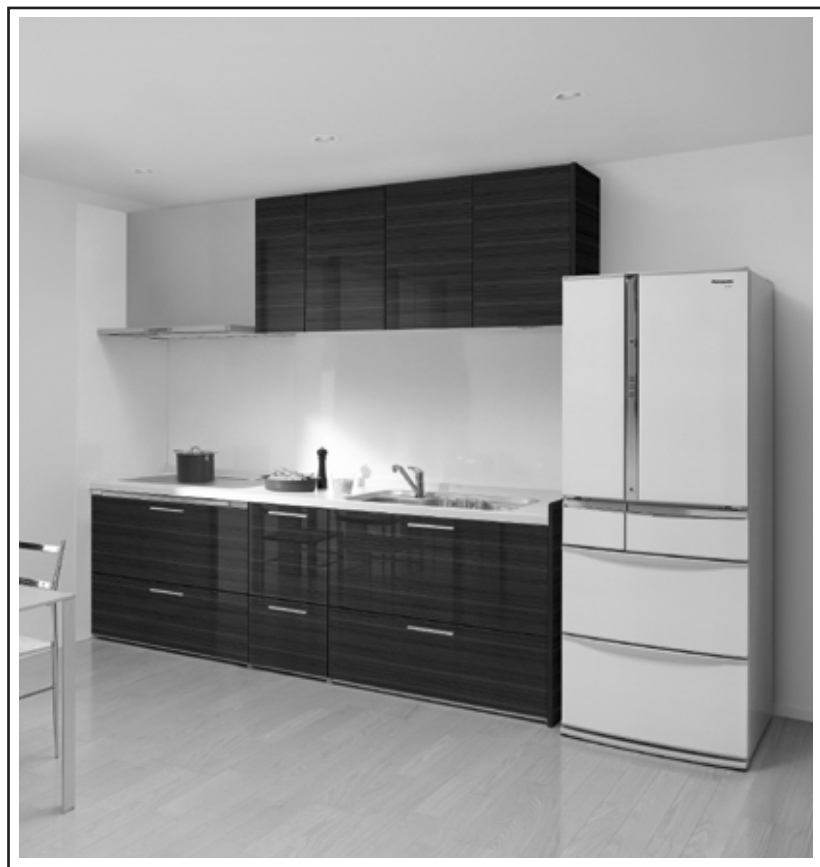
Panasonic

取付設置説明書（総合編）

システムキッチン

パナソニック キッチン リビングステーション

Living Station

V-style

もくじ

■取り付け開始前に必ずお読みください。
■取付設置業者の安全と使用者の安全確保のために、この取付設置説明書をよくお読みになり、安全で正しい取り付けを行ってください。
■開梱時に外観確認を行ってください。取り付け後に確認された傷、破損などは保証対象外となります。
■配管工事は、すべて「水道法」「建築基準法」「各都市の条例、規定」に準じて行ってください。
■電気配線工事は、「電気設備技術基準」や「内線規程」に従って確実に行ってください。
配線工事は、電気工事士の資格が必要です。
■取り付け後（通電後）に必ず動作確認を行ってください。お客様への引き渡し時（使い始め）に調整不備などで正常動作しない場合には対応をお願いします。
■梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。

RF001KAA

安全上のご注意　必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った取付設置をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

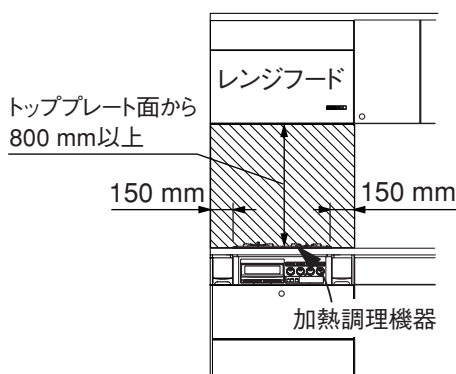
⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。

⚠警告

分解禁止

●**絶対に分解したり、修理・改造したりしない**
火災、感電、けがの原因になります。

禁止

●**レンジフード横には一般ユニットを設置しない（不燃ウォールユニットを使用してください）**
不燃ウォールユニットであっても、斜線部分にかかってはいけない

火災のおそれがあります。
さらに火災予防条例の規制があります。

●**キッチンに組み込まれる、電気製品・加熱機器・レンジフード・その他機器については、それぞれの取付設置説明書・注意表示通りに、正しく取り付ける**
思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●**電気工事、ガス工事、水道工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う**
火災、ガス漏れ、水漏れの原因になることがあります。

●**外気と通じるすき間は合板などを利用して必ず埋める**
ガスの火が消えたり、機器内部の「焼損・火災」の原因になります。

●**下地材の材料仕様は住宅（建築物）との兼ね合いがあるので、現場監督・建築士などと相談のうえ、仕様決定する**
不適切な材料を使用すると十分な強度が得られず、落下し、事故の原因になります。

●**ウォールユニットの取り付けは建築壁の構造を確かめて、取付設置説明書の通りに正しく取り付ける**
ユニットが落下して、けがの原因になります。

●**壁面に補強桟が強固に固定されていることを確認する**
補強桟は腐れのない補強桟を使用する
ウォールユニットが落下してけがをするおそれがあります。

●**ユニットの固定には、必ず指定の取り付け部品、ねじ類を使用する**
ユニットが落下して、けがの原因になります。
また、長いねじを使用すると、カウンター表面にねじ先が飛び出て、けがの原因になります。

●**ステンレスカウンターやシンクは、必ず手袋をして取り扱う**
けがをするおそれがあります。

●**取り付け作業時はヘルメット、安全靴などを着用する**
ユニットの角で頭を打ったり、落下物による打撲などの事故の原因になります。

⚠注意

禁止

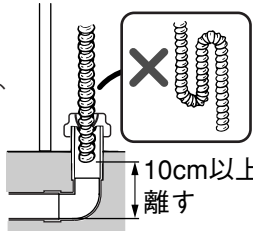
●扉や取っ手にぶら下がったり、扉を大きく開けすぎない

扉や取っ手が外れて、けがをするおそれがあります。

●ウォールユニットの扉を開けたまま作業しない

頭を打ったり、収納物が落下して、けがをするおそれがあります。

●排水ホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けない

排水能力が低下してシンクから水があふれ、周囲を汚損するおそれがあります。
ホースを適切な長さに切断してください。

●排水管の接続部は確実に締め付ける

水漏れし、不快な臭い、かびの発生、腐食の原因になります。

●防臭キャップと排水管の接続は接着剤またはシーリング材で必ずシールする

シールが不完全な場合、臭気が発生したり、湯気が上がり、ユニットや床などが腐るおそれがあります。

●カウンターと壁、エンドパネルの合わせ部はシーリング材で必ずシールする

シールが不完全な場合、水こぼれでエンドパネル、壁および床を傷めるおそれがあります。

●扉の調整は正しく行う

耐震ロックが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●水平・垂直・直角基準を正確に出し、ウォールユニットを水平に取り付ける

ウォールユニットの水平が出ていない場合、耐震ロックが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

●不安定な垂壁に設置する場合は、垂壁を補強してから、ウォールユニットを固定する

ウォールユニットがぐらついたり、落下してけがをするおそれがあります。

●ねじで固定する場合は、必ずドライバーで行い、締めすぎによるねじの空回り、頭（スリワリ⊕）つぶれのないようにする

ユニットなどが落下してけがの原因になります。

●包丁差しは、必ず指定の位置に固定する

包丁差しが脱落し、けがをするおそれがあります。

●包丁差しの取り付けは、必ず包丁差しに付属のねじを使用する

包丁差しが外れて、けがをするおそれがあります。

●設置完了後は、ねじの緩みや、浮きなどがないこと、棚板、引出し、扉、包丁差しなどが確実に取り付けられていることを確認し、傾き、がたつき、ねじやヒンジの緩みなどがある場合は、正しくセットする

使用中に棚板、引出し、扉、包丁差しなどが外れたり、落下して、けがの原因になります。

●設置仕上げに使われる溶剤・接着剤・洗剤・その他薬品類については、容器などにある注意表示に従い、正しく使用する

人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因になります。

■「キッチンの取り付け・設置」とユニット工事区分

⚠警告

本説明書は、システムキッチンの本体組み立て・設置と関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事、ガス配管工事、配管（給排水）工事、建具工事など）を区別して説明しています。
建設工事は、関連する法令、規定に従って法的有資格者による工事が必要になります。
流通業者（販売店）を通して「本体の組み立て・設置」を行う場合は、建設工事部分と「システムキッチンの本体組み立て・設置」を区別して行ってください。

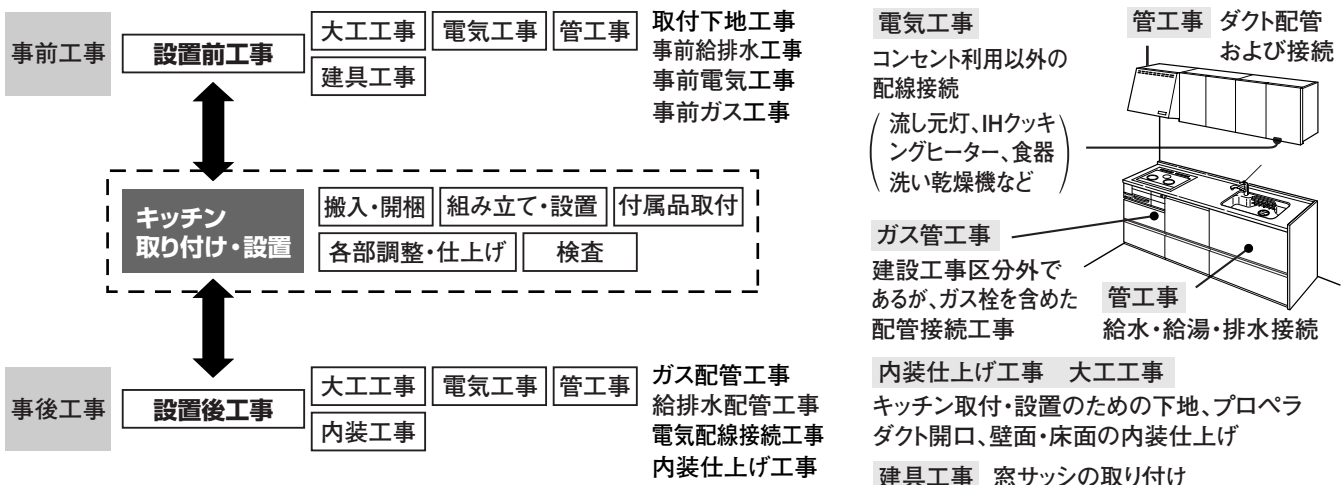
電気工事 コンセント利用以外の配線接続（流し元灯、IHクッキングヒーター、食器洗い乾燥機など）

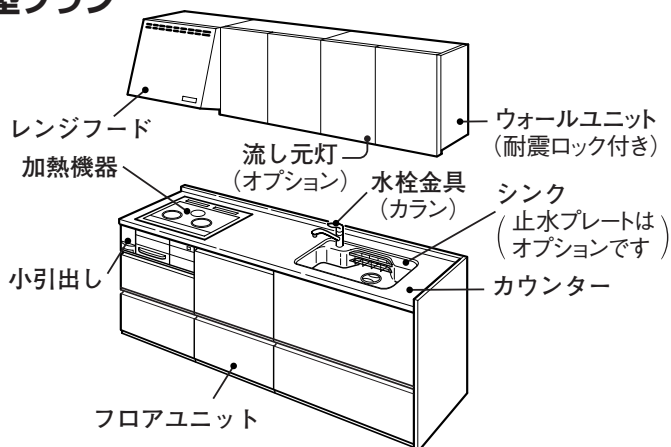
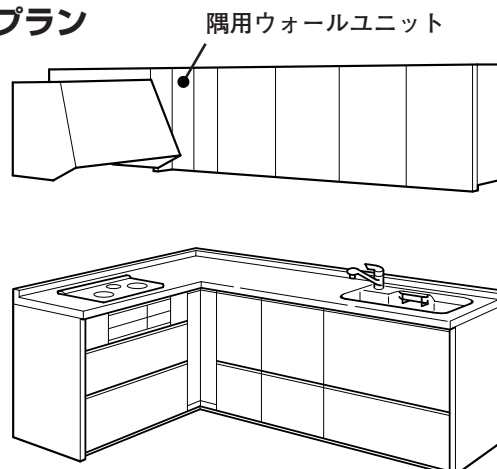
管工事 ダクト配管および接続

ガス管工事 建設工事区分外であるが、ガス栓を含めた配管接続工事

管工事 給水・給湯・排水接続

内装仕上げ工事　大工工事 キッチン取付・設置のための下地、プロペラダクト開口、壁面・床面の内装仕上げ

建具工事 窓サッシの取り付け

壁付I型・L型プラン

I型プラン

L型プラン

■取付部品箱（シンク下スライド用・シンク下開き用）

シンク下スライド用のみ

部品名	入り数	用途	部品名	入り数	用途
L金具 2つ穴	3	シンク横前部固定	包丁差し	1	
パイプキャップ	4	給湯・給水・ガス用			
	1	排水用	トラス⊕ϕ4×18 平ワッシャー スペーサーϕ4×6	各2	包丁差し取り付け
取工説セット	1セット				

■カウンター付属部品

部品名	入り数
排水セット箱	1箱
洗剤ラック	1

排水セット …… カウンターのシンク包装箱の横に付属
（付属部品内容は、排水セット箱内に付属の取付設置説明書でご確認ください。）

洗剤ラック …… スキマレスシンク ステンレスタイプ用…排水セット箱内に付属
その他シンク用……………………………カウンターのシンク包装箱内に付属

排水プレート … スキマレスシンク クリアタイプ用…カウンターのシンク包装箱内に付属
その他シンク用………………………排水セット箱内に付属

取り忘れのないようご注意ください。

■取り付け前のご注意

●商品を開梱したら外観に損傷がないことをご確認ください。
（躯体取り付け済商品の損傷は、保証対象外となりますので、取り付け前に必ずご確認ください。）

●商品の養生は右記の注意事項を厳守ください。
①梱包の段ボール・養生紙などを用い養生してください。
②養生テープは直接商品に貼らないでください。
③養生テープは粘着力の弱い養生紙専用テープをご使用ください。

●フロアユニットを設置する後壁部の配管貫通部、内壁接合部などにすき間がある場合には、すき間を埋めて外気からの風の影響を受けないようにしてください。（ガス加熱機器の炎がゆらいだり、火が消えたりします。）

●温度変化によるカウンター寸法の伸縮がありますので、両端壁プランの場合、躯体は両端各2mm以上大きく仕上げてください。
（仕上げ時、シーリング材の充てん処理）

■取り付け上のご注意 〈シンク下ユニットへのオプション類取り付けについて…〉

●包丁差し・他のオプションパーツの取り付けは、ユニット内の収納計画に合わせて位置を決め、固定してください。

取り付け前の確認

［寸法単位：mm］

1 補強桟の取り付け寸法と取り付け要領

補強桟位置はプランによって異なりますので、商品に合わせて、下図を参照に取り付けてください。

※仕上げがタイル圧着貼りなどの場合は、その下地材の厚みが12mm以上の耐水合板または、同等品以上の強度がある場合は、補強桟の取り付けは不要です。

※フロアストッカー付ユニットを取り付ける場合で、床仕上げを後貼りする場合は、ユニット下に床材と同じ厚み分の床のかさ上げをしてください。（8ページ参照）

⚠警告

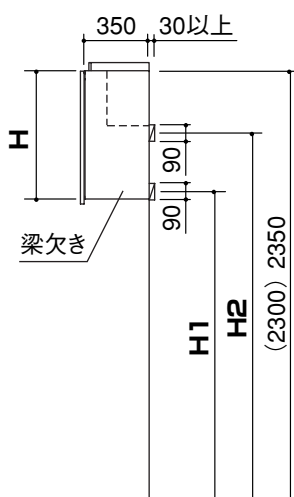
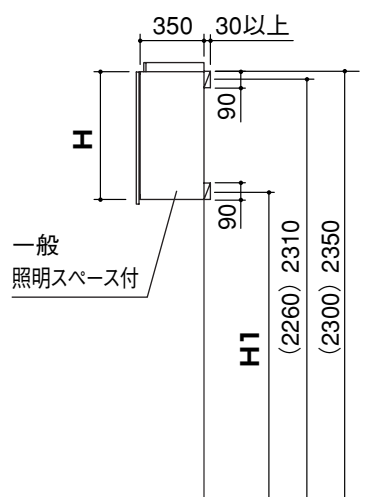
壁面に下図の補強桟が強固に固定されていることを確認する

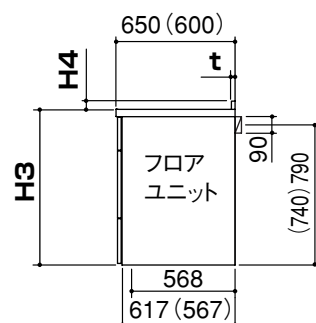
補強桟は腐れのない補強桟を使用する

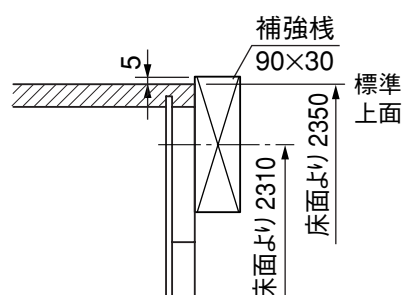
ウォールユニットが落下してけがをするおそれがあります。

ウォールユニット

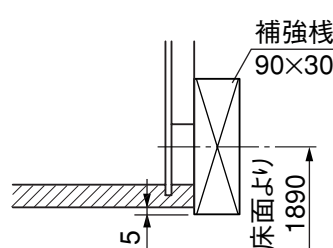
フロアユニット

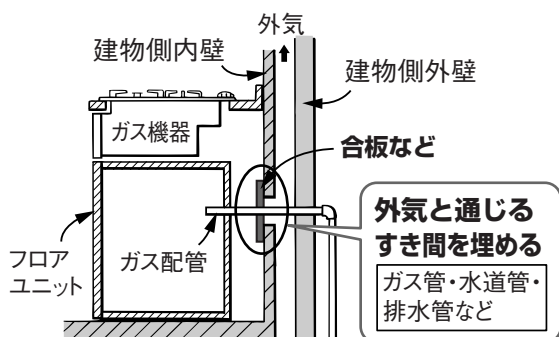
650（600）
t
H4
H3
フロア
ユニット
90
（740）790
568
617（567）

		一般	梁欠き	
		H1	H1	H2
H	500	（1860）1910	（1860）1910	（2060）2110
	600	（1760）1810	（1760）1810	（1960）2010
	700	（1660）1710	（1660）1710	（1960）2010
	840	（1520）1570	—	—

		照明スペース付
		H1
H	500	—
	600	（1760）1810
	700	（1660）1710

	カウンター奥行き		
	650		600
	人大	ステンレス	人大
H3	850（800）	848（798）	846（796）
H4	45	45	15
t	20	20	10

※カウンター受け桟取り付け高さは床面より827mmです。（カウンター高さ850の場合）

ウォールユニットの上部

断面図　※カウンター高さ850の場合

ウォールユニットの下部

断面図　※カウンター高さ850・ウォールユニット高さ500の場合

フロアユニット

⚠警告

●外気と通じるすき間は合板などを利用して必ず埋める
ガスの火が消えたり、機器内部の「焼損・火災」の原因になります。

●ガス機器、カランの取り付け、換気扇、その他オプション商品の取り付けおよび取り扱いは、それぞれの取付設置説明書や注意表示などに従い、正しく取り付ける

2 給湯・給水・排水配管工事

⚠警告

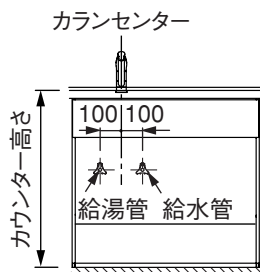
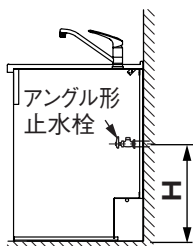
水道工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う
水漏れの原因になることがあります。

1 給湯・給水配管工事

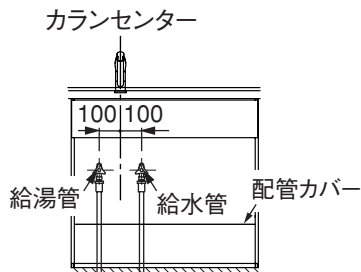
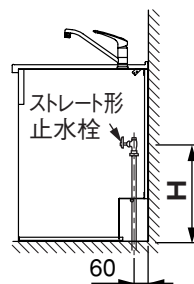
●水勢の調整および水栓の点検を容易にするために、必ず止水栓を取り付けてください。
●ハンドシャワー式水栓のときは、ドライバー式止水栓を取り付けてください。
●給湯給水配管引き込み後、ユニットに付属のパイプキャップを配管の周囲に取り付けてください。

取り付け前の確認

壁出し配管

一般プラン専用の配管方法です。

正面図

側面図

床立ち上げ配管

すべてのプランに対応できる配管方法です。

正面図　側面図

カウンター高さ	給湯側	給水側	
		浄水器・整水器あり	浄水器・整水器なし
H800	420	370	420
H850	470	420	470

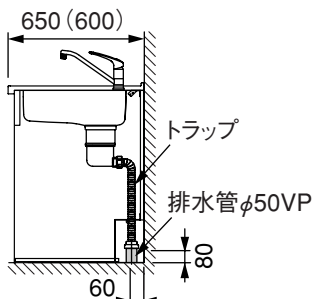
2 排水配管工事

排水管の立ち上げ高さは80 mmにしてください。
(図は代表例です。)

［寸法単位：mm］

3 ガス配管工事

⚠警告

ガス工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う
ガス漏れの原因になることがあります。

加熱機器下ユニットの配管

●棚やラックなどに当たらないように配管してください。
●ガス元栓は、操作の容易な所に取り付けてください。
●配管引き込み後、付属のパイプキャップを配管の周囲（配管用穴）に貼り付けてください。

カウンター高さ	H寸法
H800	510
H850	560

ガス引き込み管
15A Rc1/2
（PT1/2）

カウンター高さ

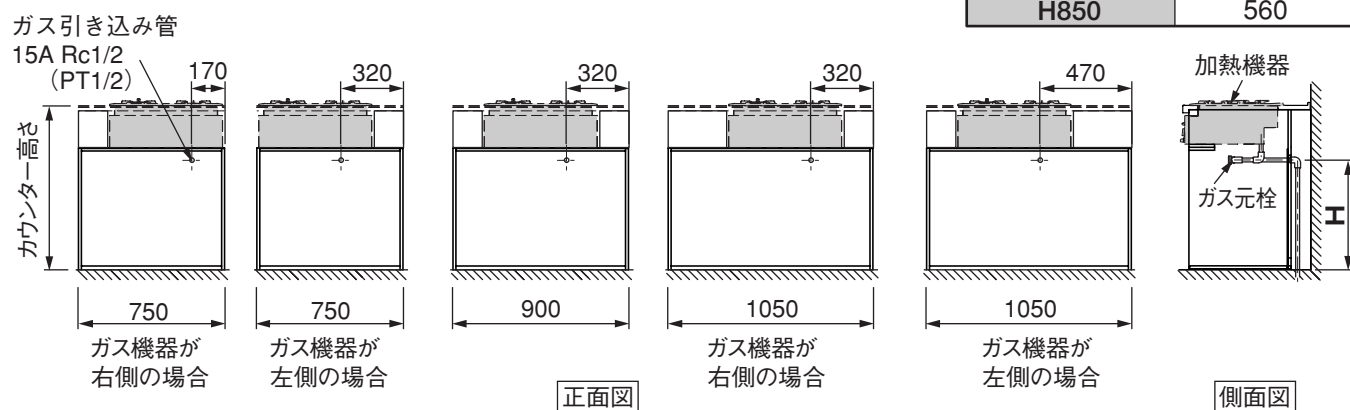
170　320　320　320　470

加熱機器

ガス元栓

H

750　ガス機器が右側の場合
750　ガス機器が左側の場合
900
1050　ガス機器が右側の場合
1050　ガス機器が左側の場合

正面図　側面図

4 電気配線工事

電気工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う
火災の原因になることがあります。

「加熱機器」「レンジフード」「照明」「食器洗い乾燥機」などの電気配線工事については、専用の取付設置説明書に従い、正しく取り付けてください。

取り付けかた

1 基準線の決定

注意

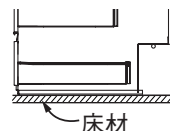
水平・垂直・直角基準を正確に出す
これを基準にウォールユニットを取り付ける
ウォールユニットの水平が出ていない場合、耐震ロックが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

取り付け前のご注意

※多少の誤差があっても正しい仕上がりになるように下地桟などを考慮してください。

※壁面タイル・キッチンボードの仕上がりも確認してください。

設置前の確認

フロアストッカー付ユニットを設置する場合で、床仕上げを後貼りする場合は、ユニット下に床材と同じ厚み分の床のかさ上げをしてください。
引出しの開閉ができない場合や、フローリングに傷が付くおそれがあります。

1. 水盛管で、各コーナーにポイントをとり、墨壷などを用いて水平基準線を打つ。

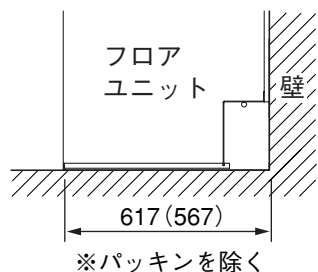
この基準線が床面と平行でなければ、長手方向を基準にして基準線を決定してください。

2. 水平基準墨の適切な位置より下記の基準線を求めて、墨を打つ。
（標準モジュール高さ2350mmの場合）

- 床からフロアユニット上端（827 mm）
- 床からウォールユニット上端（2350 mm）
- ウォールユニット（H600）の下端（1770 mm）
- レンジフード（H600）の下端（1750 mm）

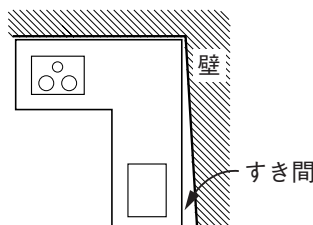
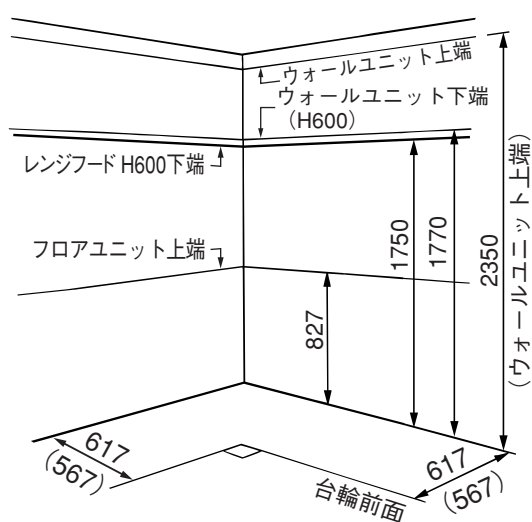
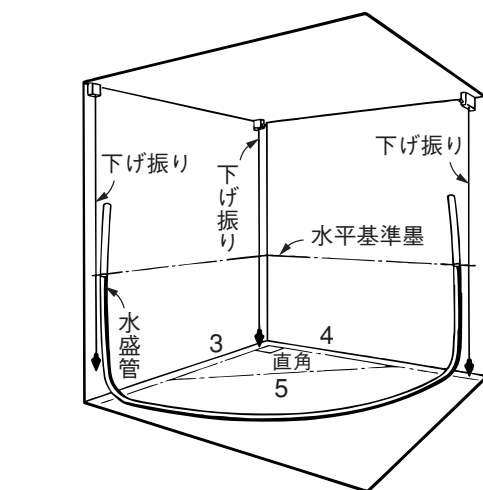
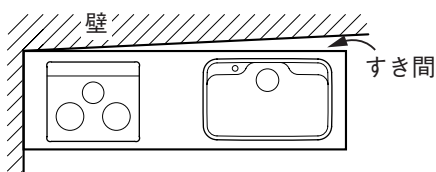
3. ●下げ振りで、長手方向の壁面側に逃げ墨を打つ。
（逃げ墨は壁面より任意50～100ｍｍに打つ。）
同時に壁面のタチなども調べておくとよい。

●上記で打った逃げ墨より直角方向にもう一つ逃げ墨を打つ。
（現場では3：4：5にて直角度を出してください。）

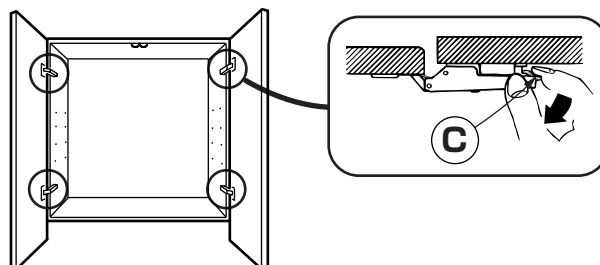
4. 壁から台輪前面位置（617（567）mm）に墨を打つ。

＊（　）内寸法は
奥行き600の場合。

5. 各コーナー、およびエンドに墨または糸を張る。
（壁面に凸凹があれば、埋める必要があります。）

キッチンは必ず直角に設置してください。

［寸法単位：mm］

2 ウォールユニットの取り付け

1 設置前の準備

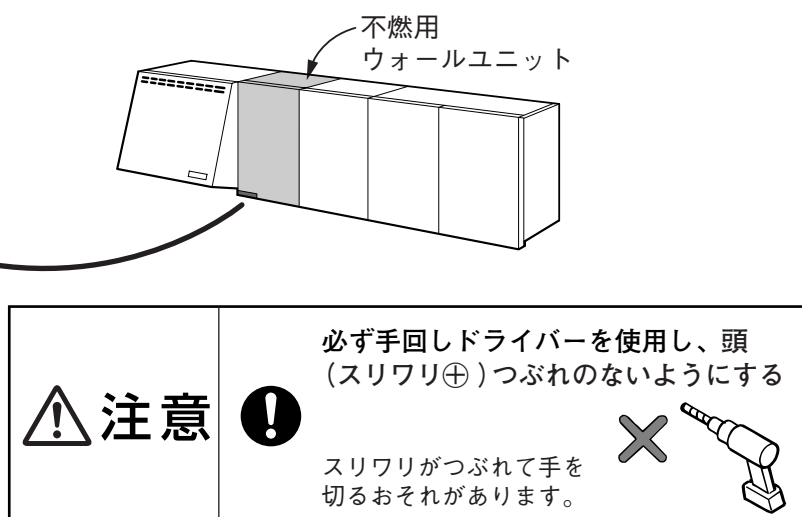
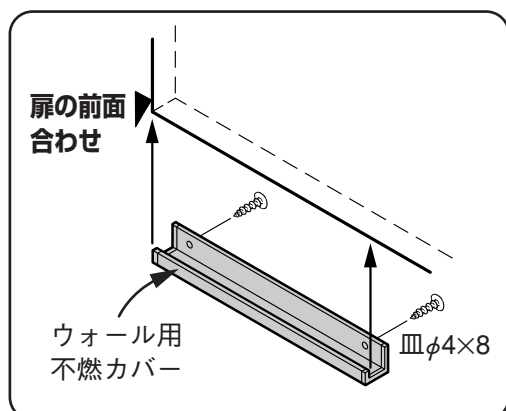
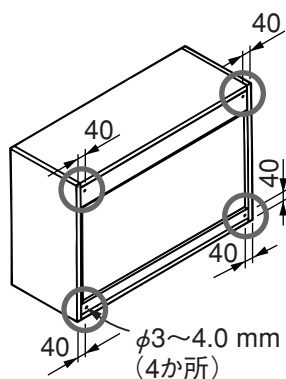
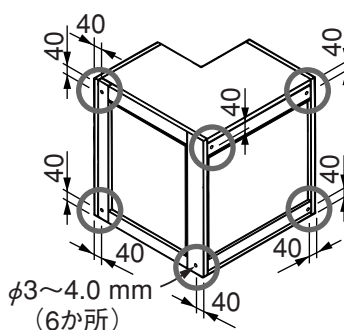
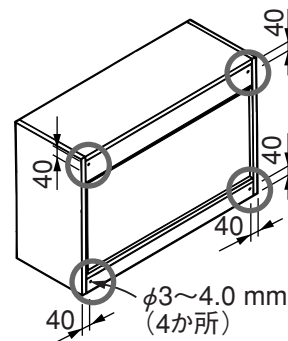
1. Ⓒをつまんで扉を取り外す。

ウォール用不燃カバー「LE2S015SZWF」がある場合

不燃用ウォールユニットの扉に、ウォール用不燃カバーを取り付ける。

※ウォール用不燃カバーは、取付部品箱と同じ大きさの箱に取付ねじと一緒に入っています。

⚠注意

必ず手回しドライバーを使用し、頭（スリワリ⊕）つぶれのないようにする

スリワリがつぶれて手を切るおそれがあります。

2. ユニットの裏板に固定用穴をあける。

コーナー用ユニット

照明スペース付ユニット

3. 耐震ロック本体の輸送時・取り付け作業時用固定テープを取り外す。

2 ユニットの設置

⚠警告
●必ず指定のねじを使い、補強桟にユニットを固定する 補強桟がない場合には、補強桟を追加してねじ止めする ユニットが落下してけがをするおそれがあります。 ●固定ねじの補強桟への入り込みが10 mm以上であることを必ず確認する 壁面への固定が不完全な場合、使用中ウォールユニットが落下してけがをするおそれがあります。 条件を満たさない場合は現場でねじを調達してください。

⚠注意
●ユニットの固定には、必ず指定のねじを使用する ユニットが落下してけがをするおそれがあります。 ●ウォールユニットの壁面固定は、裏板の指定位置にφ3〜4.0 mmの下穴を開け、裏板の桟木がある位置で必ず固定する ユニットが落下してけがをするおそれがあります。 ●ウォールユニットは水平に取り付ける 耐震ロックが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。 ●不安定な垂壁に設置する場合は、垂壁を補強してから、ウォールユニットを固定する ウォールユニットがぐらついたり、落下してけがをするおそれがあります。

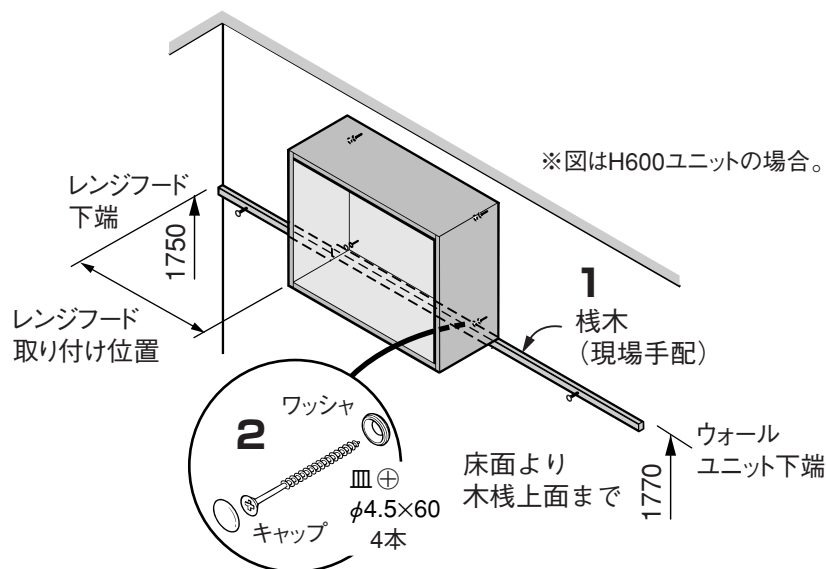
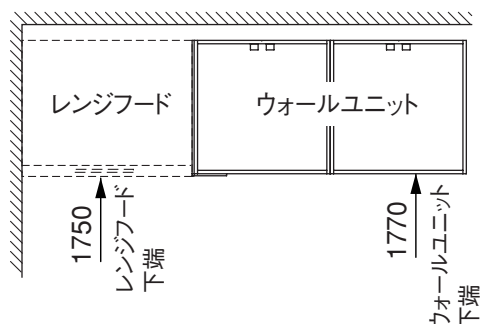
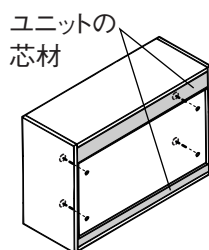
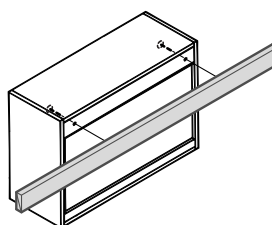
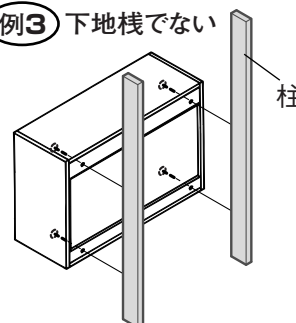
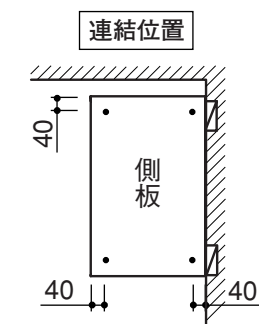
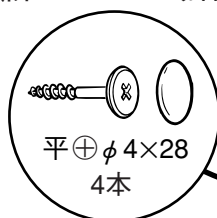
ウォールユニットの取り付け順は壁面側より順次取り付ける。
（ただし、フィラーがある場合は最終フィラーで調整する。）

必ず下地桟に固定し、指定のねじで固定してください。

1. レンジフードとウォールユニット下端基準線の位置に桟木を取り付ける。（桟木・ねじは現場手配）

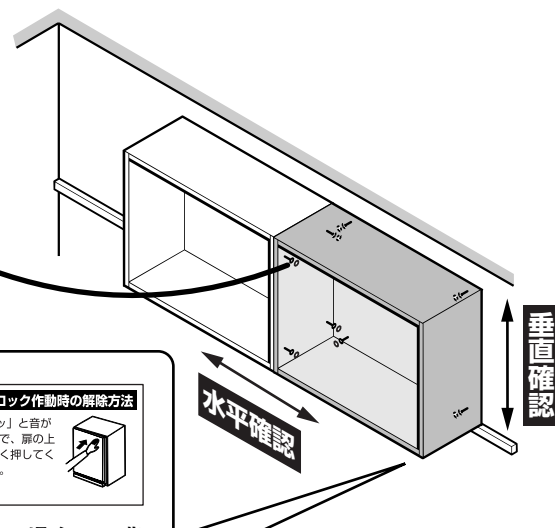
2. ウォールユニットを壁面固定する。

右記のような取り付けかたはしない。

［寸法単位：mm］

3. ウォールユニットを連結してから、壁面固定する。
壁面に固定してから連結すると、ユニット接合部分に不具合が出ます。

※ユニット取り付け後は桟木を取り外してください。

耐震ロックラベルをキッチン側のウォールユニット底板下面（シンク側）に貼り付ける。

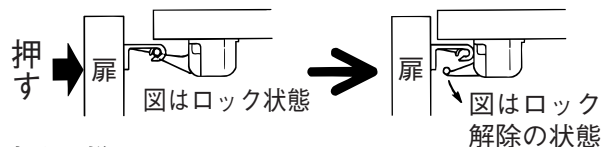
耐震ロック作動時の解除方法

「カチッ」と音がするまで、扉の上部を強く押してください。

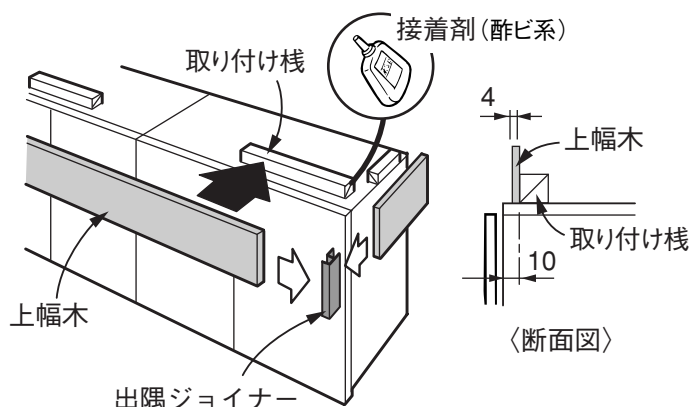
※キッチン側にウォールユニットがない場合は、背面側ウォールユニット近辺に貼り付けてください。

耐震ロックの解除のしかた

●地震で作動し扉がロックします。（ウォールユニット全て）

「カチッ」と音がするまで、扉の上部を強く押してください。

（耐震ロックが解除し、扉が開きます。）

工事業者様へ…
「耐震ロック解除のしかた」は、お客様に口頭でご説明ください。

3 上幅木の取り付け

●上幅木（幅195mm）を現場にてカットし、使用する。
●ユニット前木口より10 mmのところに取り付け桟（付属）を取り付け、市販の接着剤（酢ビ系）で上幅木を取り付ける。
※取り付け桟（長さ600 mm）はカットして使用し、木ねじ固定の場合は必ず下穴をあける。

4 流し元灯の取り付け

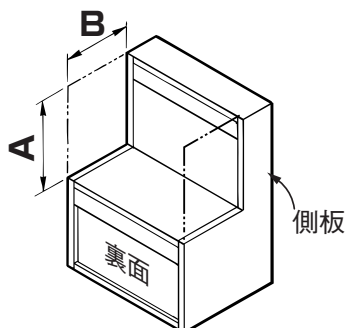
●専用の取付設置説明書に従い、正しく取り付けてください。

梁がある場合の取り付け

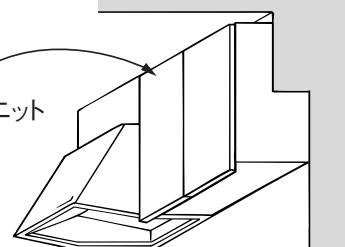
梁欠き用ウォールユニットや梁欠き用不燃フィラーを使用して設置する。

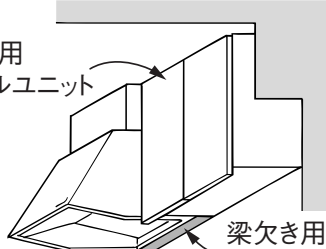
■梁欠き用ウォールユニット
（高さ500・600・700mm用）

梁のサイズに合わせて側板をカットする。

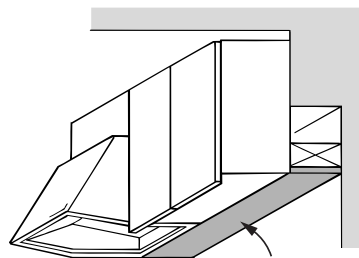
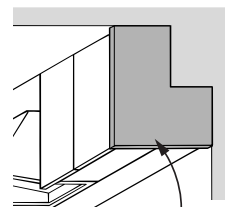
高さ	A	B
500	200	230
600	300	230
700	300	230

梁奥行150mmまでの場合

梁欠き用ウォールユニットで設置する。

梁欠き用
ウォールユニット

梁奥行151〜230mmまでの場合

梁欠き用ウォールユニットと梁欠き用不燃フィラーで設置する。

梁奥行231〜300mmまでの場合

梁欠き用不燃フィラーで設置する。

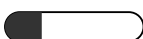
※エンドパネルはフロア用のものをカットして使用してください。

5 フロアユニットの取り付け

床の水平、壁の垂直を確認したうえで取り付けを行ってください。

■固定の順序

I型プランの場合 …片側がオープンであれば、その逆側より固定を始めてください。

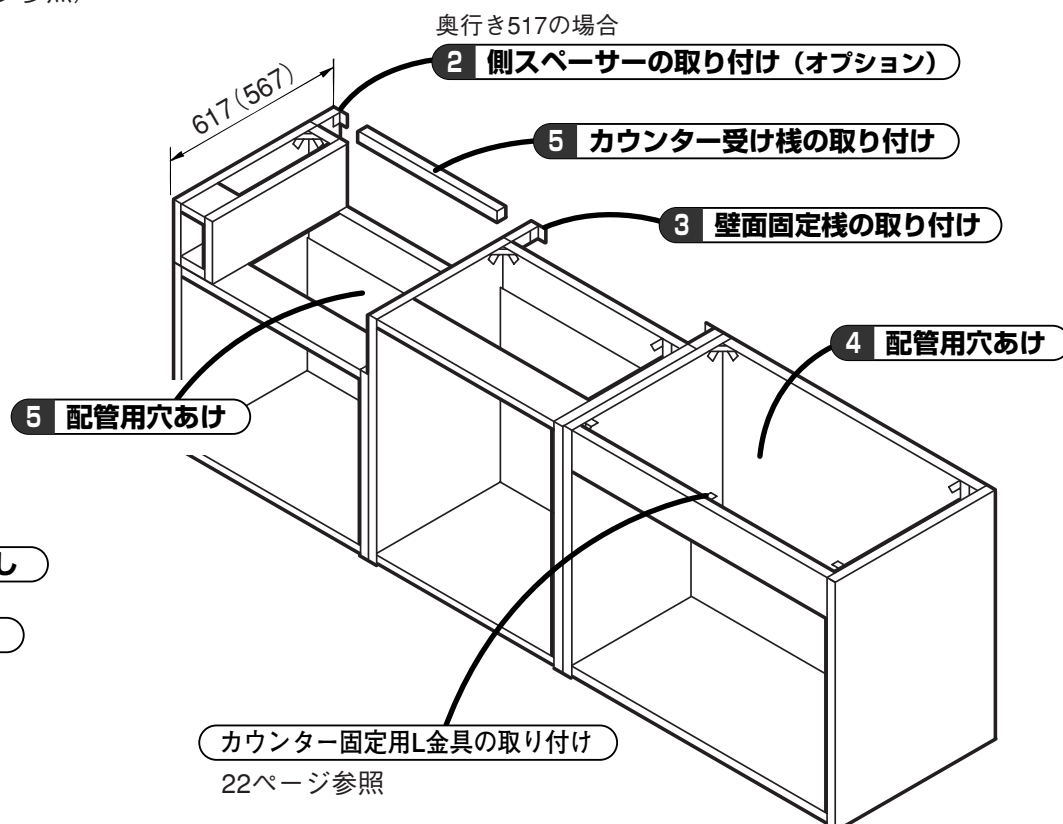
L型プランの場合 …コーナーを固定し、次に長手方向に固定し、次に短方向に固定してください。

■取り付け手順

固定に使う小物類 カウンター受け桟 の取り付け → 仮置き → 床面固定 → 壁面固定

フロアユニットの構成

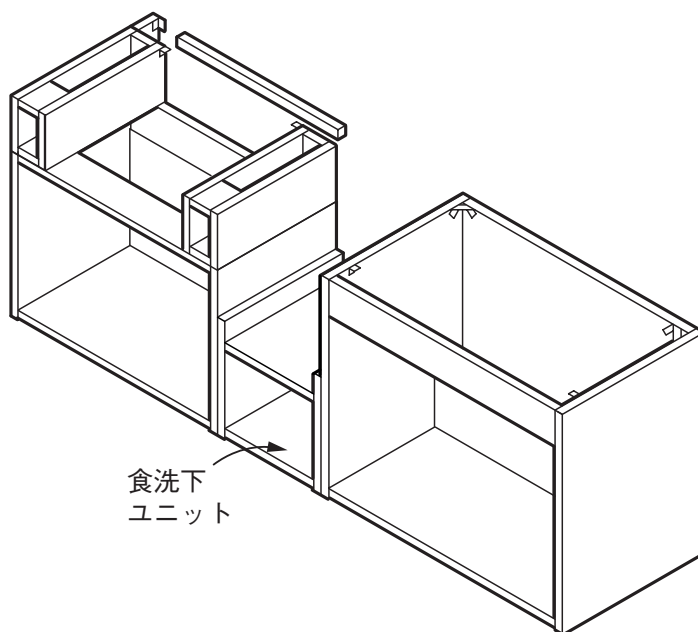
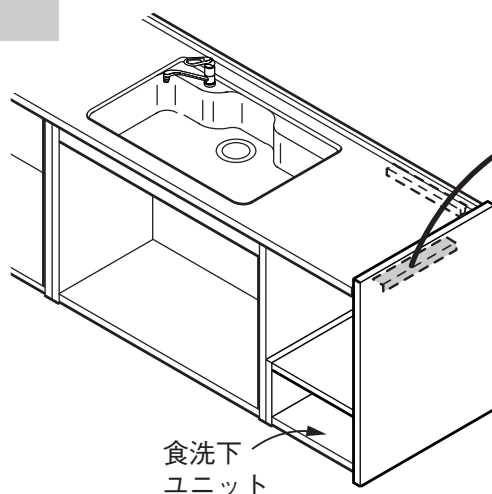
図中の （　　） は下記～17ページ参照

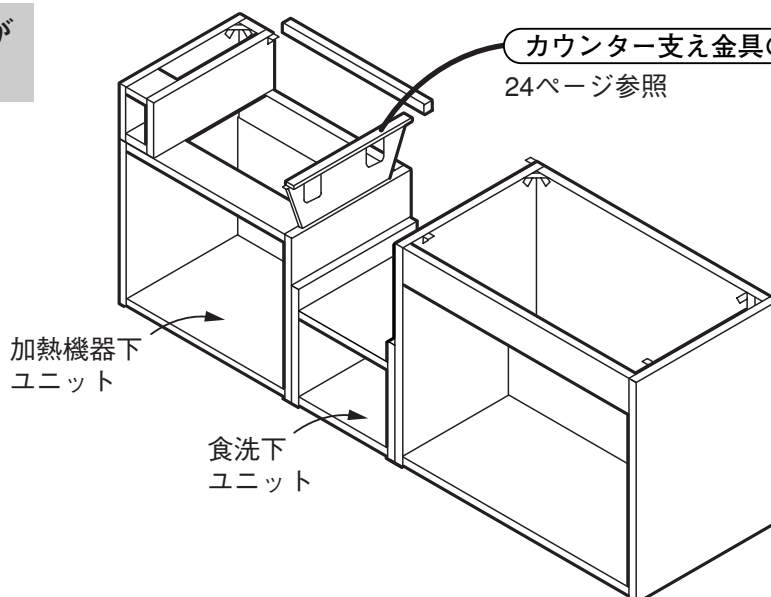
I型プランの場合

取り付けの前に、ガス管などの引き込み穴の加工、管の引き込みを裏板または地板より行ってください。（16ページ参照）

■ウォールtoウォールの場合
フィラーまたは目地棒を取り付ける。
取り付けかたは18ページ参照

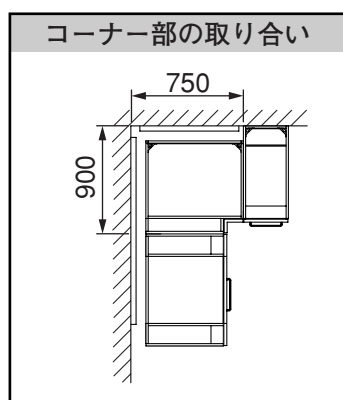
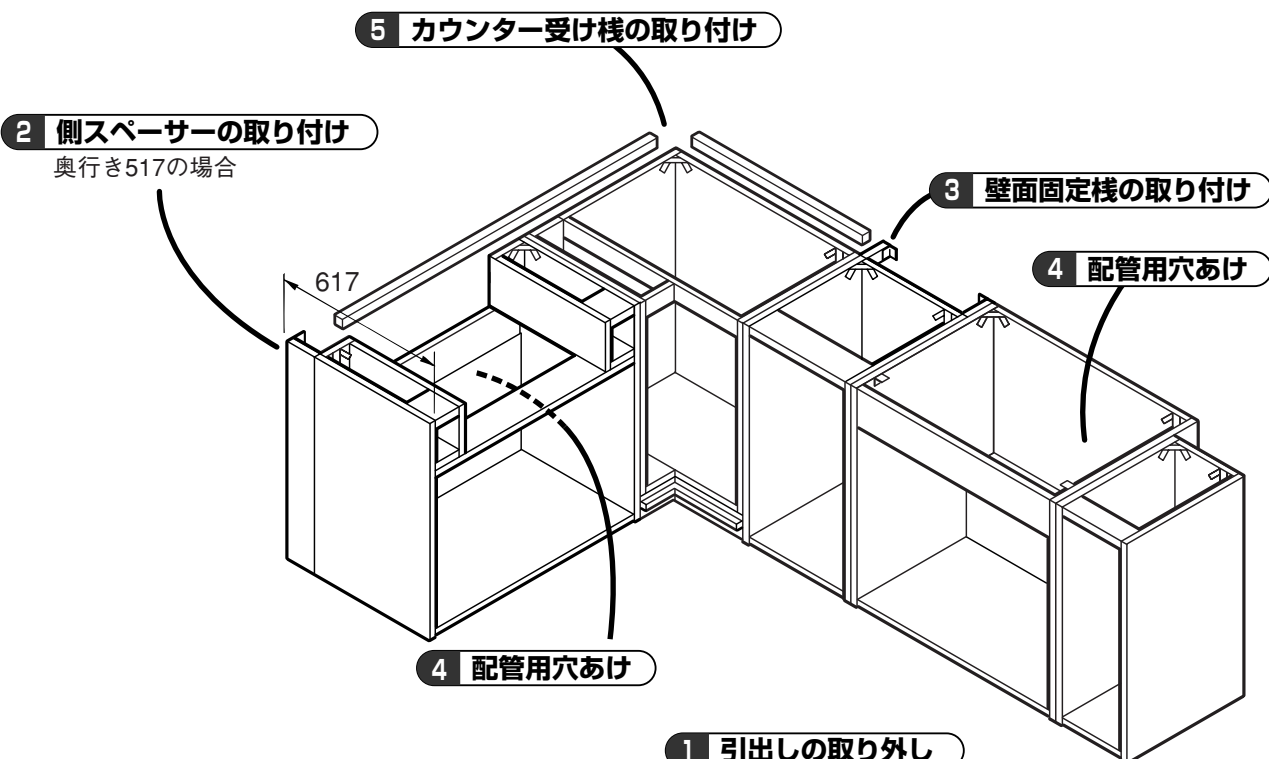
※（　）内寸法は奥行き600の場合。

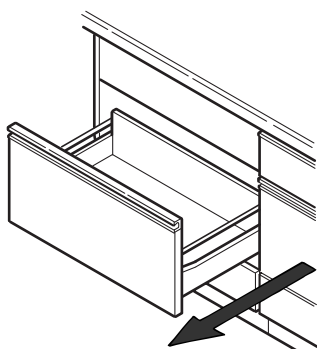
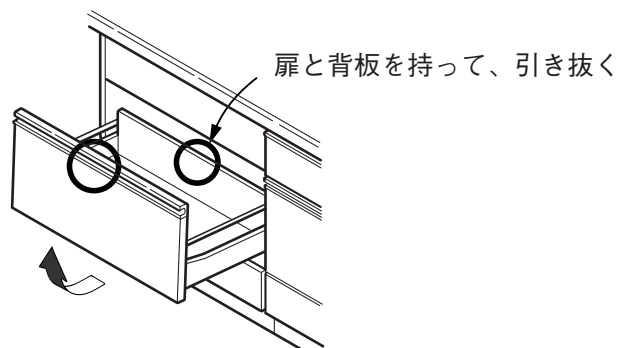
取り付けの前にガス管などの引き込み穴の加工、管の引き込みを裏板または地板より行ってください。（17ページ参照）

食器洗い乾燥機が間に組み込まれる場合

食器洗い乾燥機が端に組み込まれる場合

カウンター支持金具の取り付け
（壁面またはエンドパネルに取り付ける）
（**LE02NL3P**に付属の取付設置説明書に
従い、取り付けてください。

加熱機器と食器洗い乾燥機が隣接する場合

カウンター支え金具の取り付け
24ページ参照

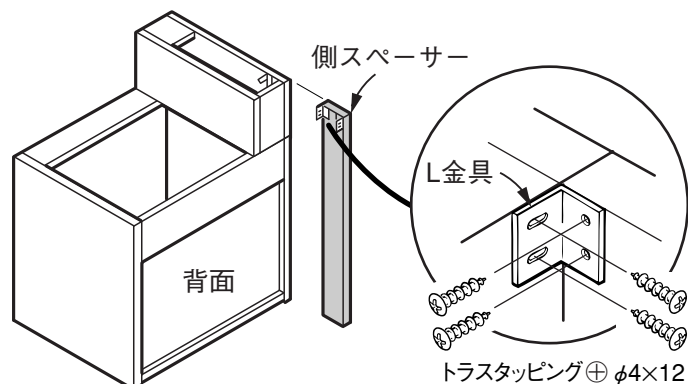
［寸法単位：mm］

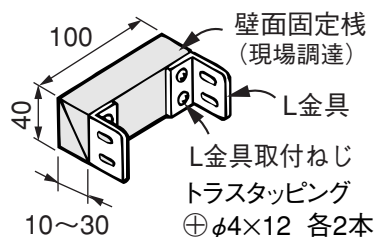
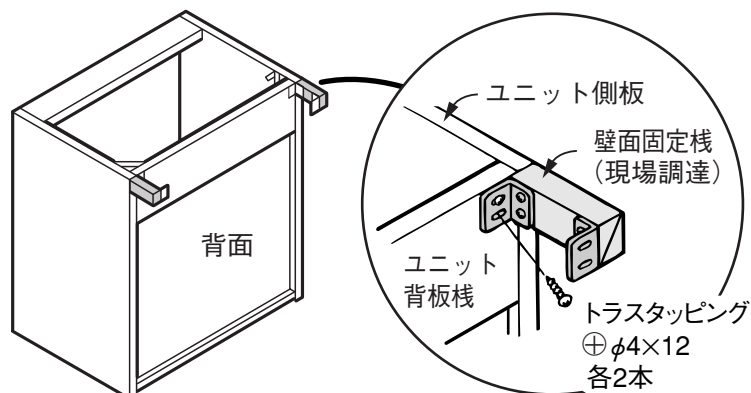
L型プランの場合

1 引出しの取り外し

1. いっぱいまで引き出す。

2. 斜めに上げて外す。

2 側スペーサーの取り付け（オプション）〈加熱機器下ユニット〉

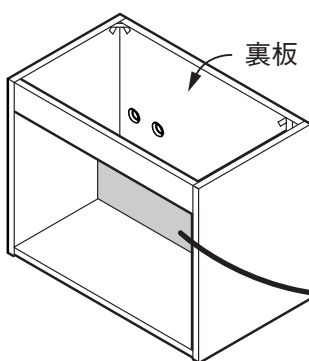
対面プランで加熱機器下ユニット裏面にバックパネルを取り付ける場合は不要です。（32ページ参照）

1. 側スペーサーに付属のねじで付属のL金具を取り付ける。（上側 前後2か所）

2. ユニットの背板に側スペーサーを取り付ける。

3 壁面固定桟の取り付け〈調理スペース下ユニット〉

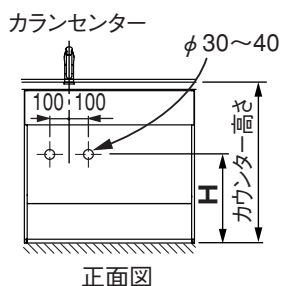
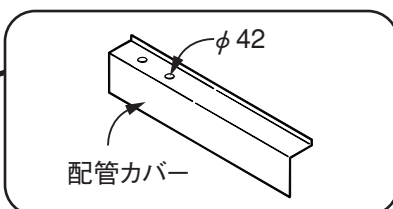
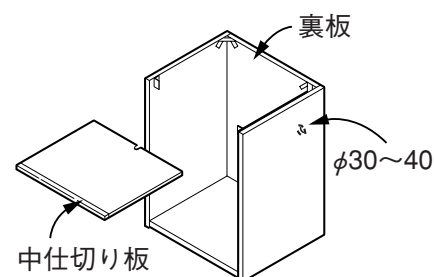
1. 壁面固定桟を加工する。

2. ユニット背板に壁面固定桟を取り付ける。（左右2か所）

4 配管用穴あけ

給水給湯配管、およびガス配管の引き込み位置に現物合わせで配管穴をあける。
（ユニットの外から内に向かってあけると容易です）

■シンク下ユニット

壁出し配管の場合

裏板にφ30〜40の穴をあける。

床上げ配管の場合

配管カバーにφ42の穴をあける。
※詳しくは25ページ参照。

正面図

カウンター高さ	給湯側	給水側	
		浄水器・整水器あり	浄水器・整水器なし
H800	420	370	420
H850	470	420	470

■加熱機器下ユニット

グリルレス用

5 カウンター受け桟の取り付け

1. カウンター受け桟を図のように現場調達で準備する。

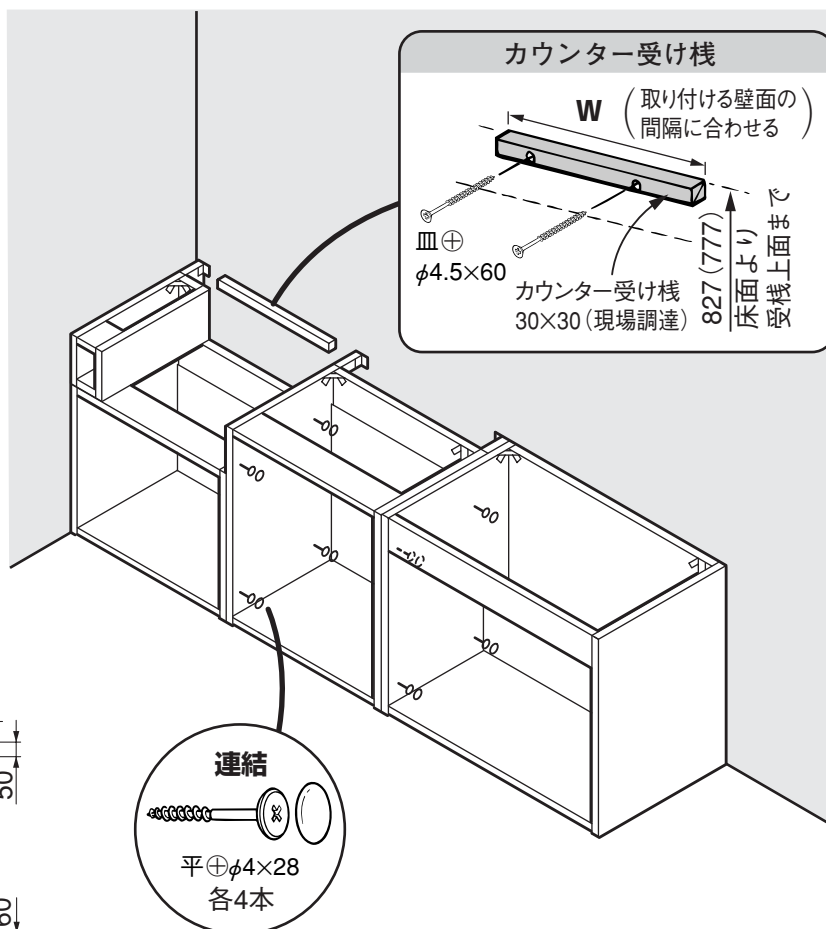
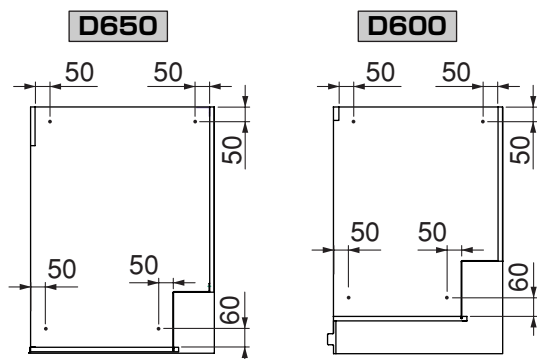
2. カウンター受け桟を壁面に固定する。

6 ユニットの連結

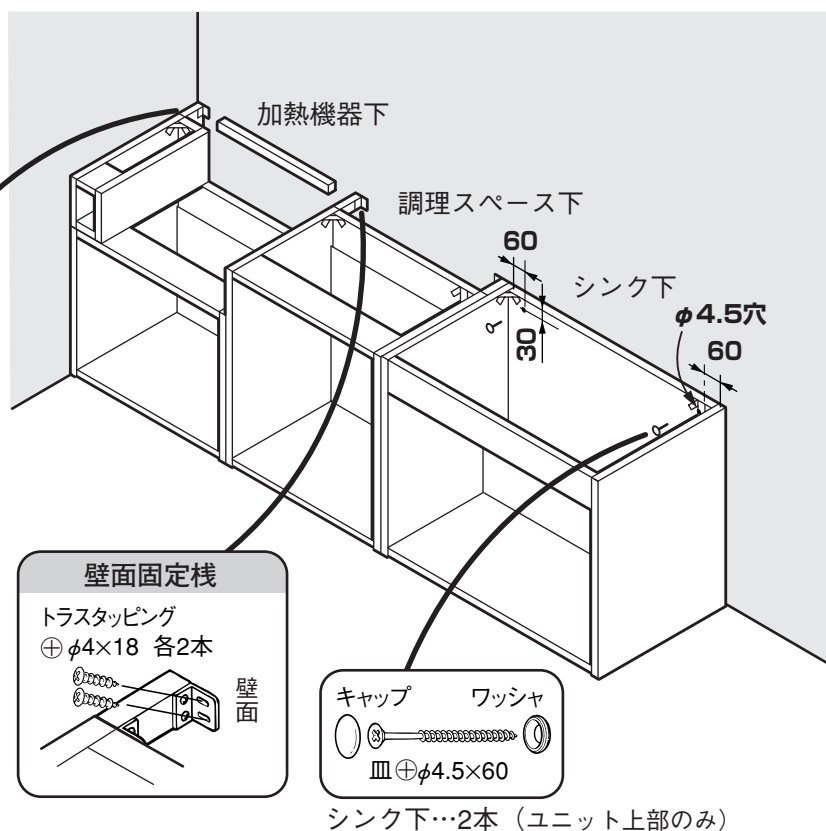
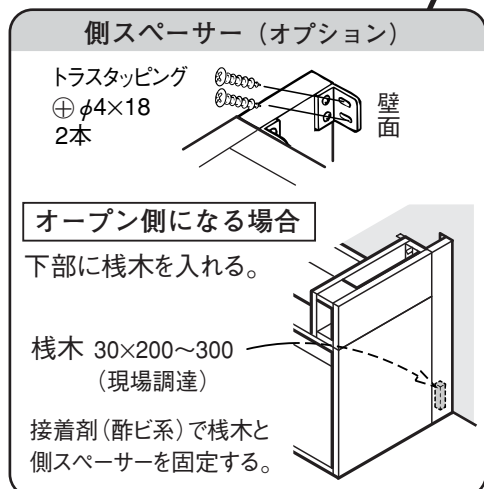
隣のユニットと前面および上面を合わせて付属の連結ねじでユニットを連結し、連結後キャップをはめる。
※指定の位置で固定できない場合は、変更してください。

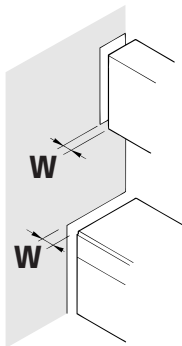
■ユニット連結位置

D650

D600

7 壁面固定

ユニットの前倒れ防止のため、裏板に穴をあけて壁面に固定する。

シンク下…2本（ユニット上部のみ）

フィラーの取り付け

壁面に隣接するユニットを仮置きし、
ユニットのすき間幅**W**を確認する。

ウォール用フィラー

1 フィラーの切断・切断面の処理

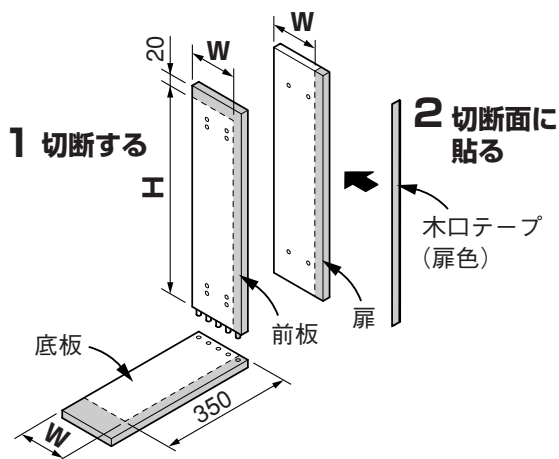
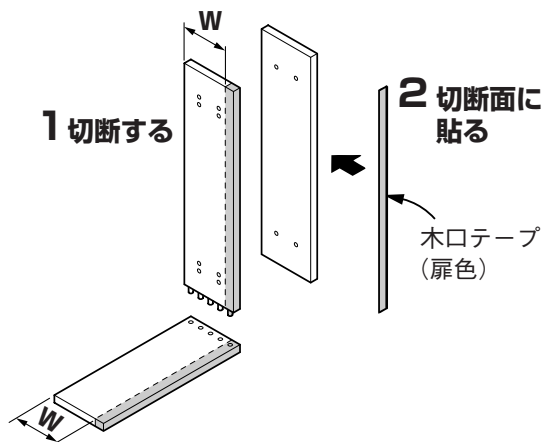
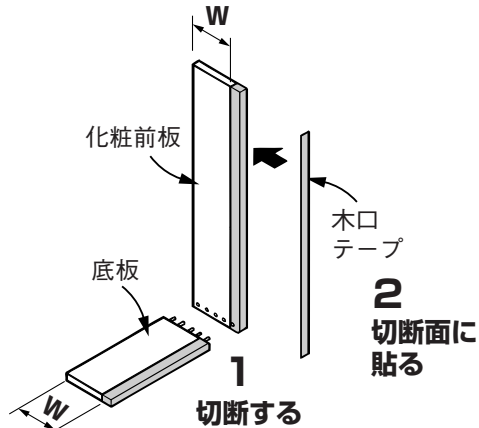
1. すき間に合わせて、各部材の**壁側**を切断する。
2. 付属の木口テープを両面テープで貼り付け、
   端面形状に沿ってかんな、やすりなどで仕上げる。
   ※接着剤（酢ビ系）を併用して取り付けてください。

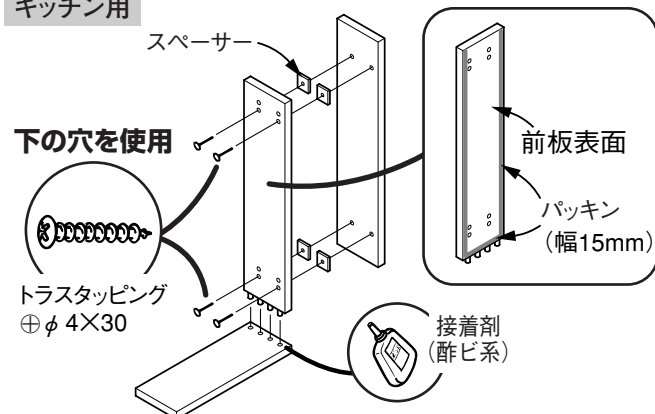
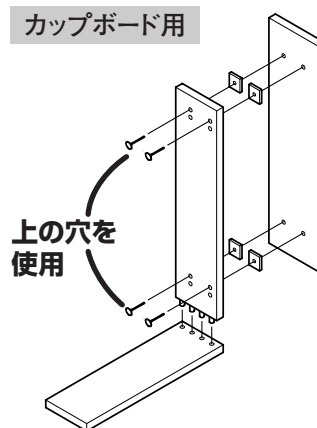
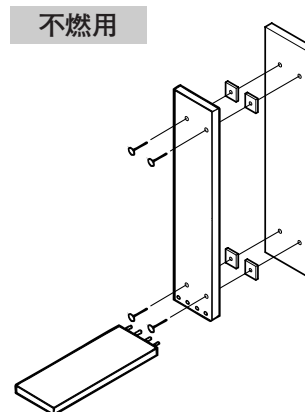
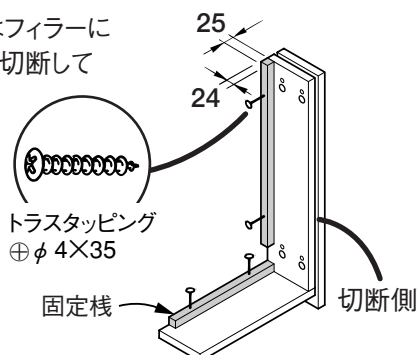
キッチン用

ユニット高さ	H寸法
H500	465
H600	565
H700	665

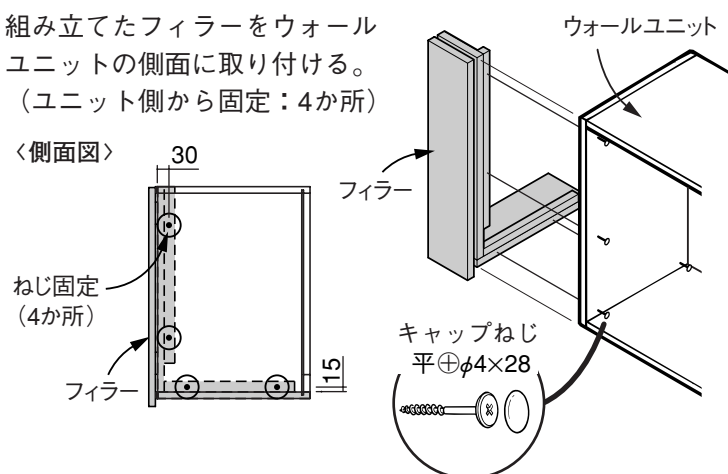
カップボード用

不燃用

［寸法単位：mm］

2 フィラーの組み立て

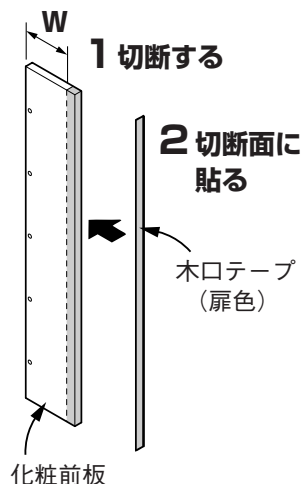
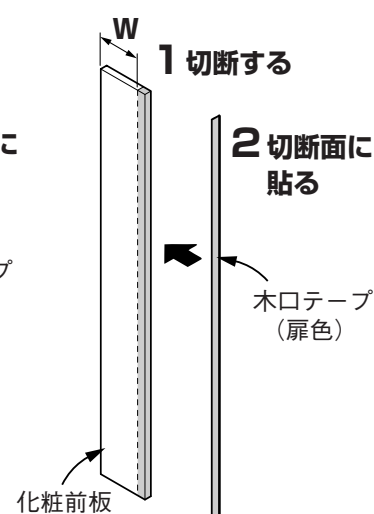
フィラーを図のように組み立てる。

3 固定桟の取り付け

切断していない側に固定桟を取り付ける。

※不燃フィラーの場合は桟木に下穴をあけ、
手回しドライバーで締めてください。

4 フィラーの取り付け

組み立てたフィラーをウォール
ユニットの側面に取り付ける。
（ユニット側から固定：4か所）

フロア用フィラー

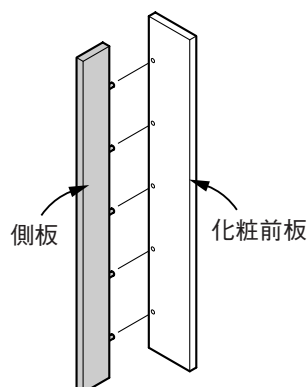
1 フィラーの切断・切断面の処理

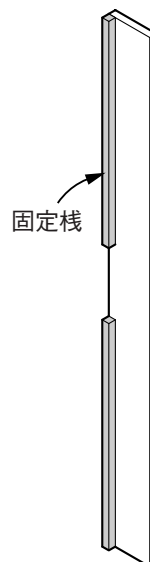
1. すき間に合わせて、各部材の**壁側**を切断する。
2. 付属の木口テープを両面テープで貼り付け、端面形状に沿ってかんな、やすりなどで仕上げる。

   ※接着剤（酢ビ系）を併用して取り付けてください。

3 組み立て・固定桟の取り付け

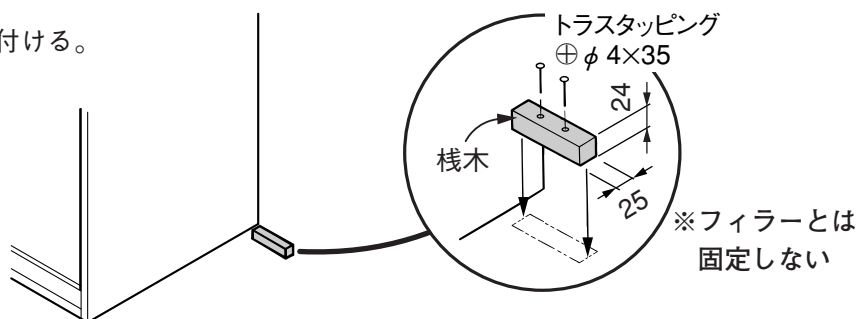
フロアストッカー用

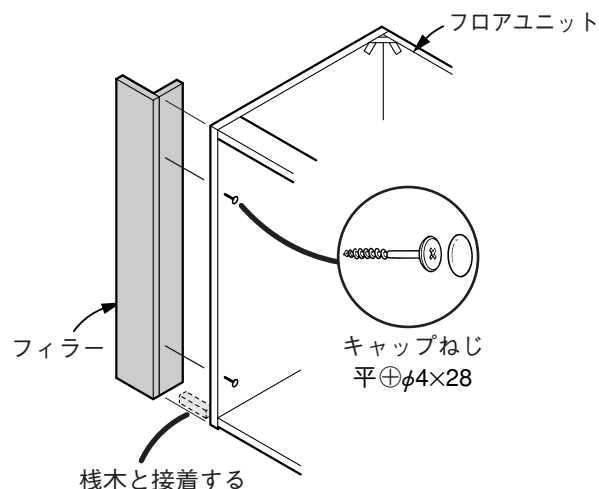
化粧前板に側板を取り付ける。

トール用

切断していない側に固定桟を取り付ける。

固定桟はフィラーに合わせて切断してください。

4 桟木の取り付け

ユニット横の床面に桟木を取り付ける。

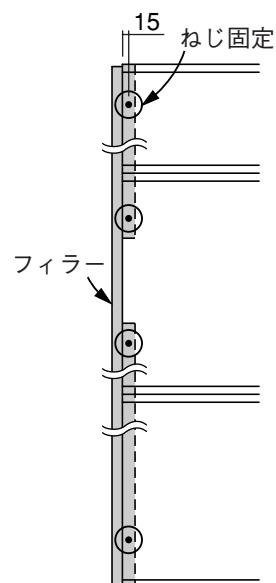
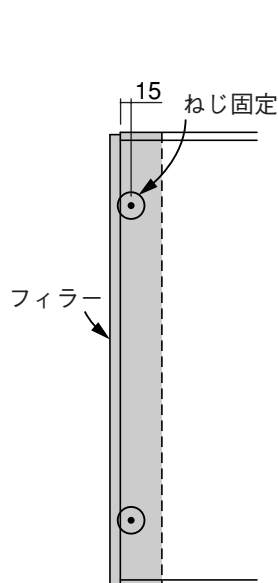
桟木はW寸法に合わせて切断してください。

5 フィラーの取り付け

組み立てたフィラーをフロアユニット側面に取り付ける。（ユニット側から固定）

※図はフロアストッカーの場合

フィラーの取り付けねじ位置 〈側面図〉

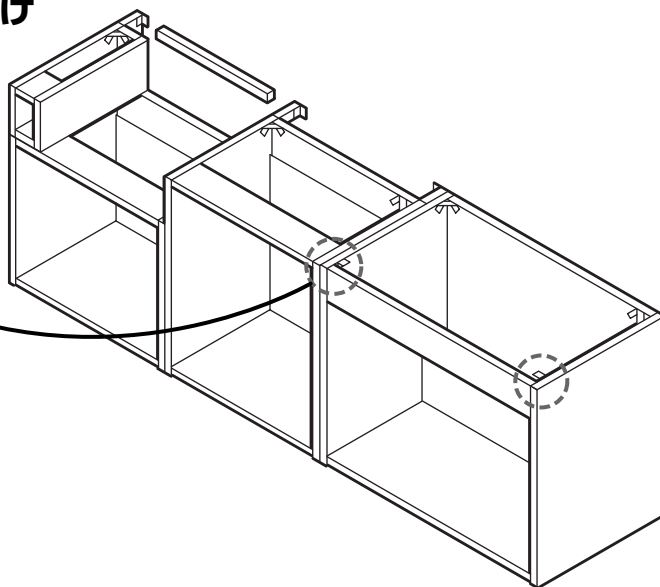
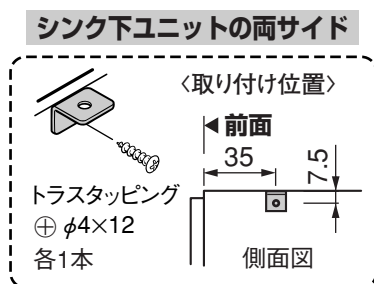
引出しや丁番などに当たらない位置でねじ固定してください。

フロアストッカー用（2か所）　**トール用**（4か所）

［寸法単位：mm］

6 カウンターの取り付け

D650の場合

1 カウンター固定用L金具の取り付け

下記の取り付け位置にL金具を取り付ける。
（下穴がある場合は下穴位置に取り付ける。）

シンク下ユニットの両サイド

2 カウンターの固定

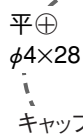
1. フロアユニットに載せる。
2. カウンターとフロアユニットの位置を合わせる。
3. フロアユニット後部の固定金具、前部の固定金具の順で固定する。

ユニット前面より33mm出して設置してください。

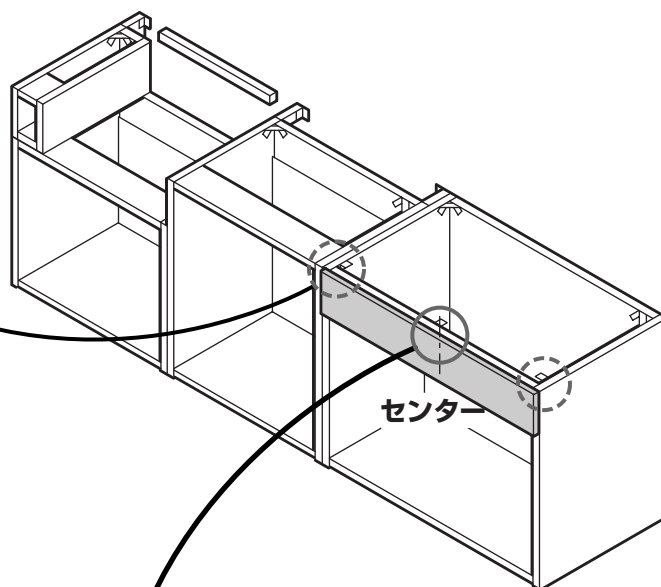
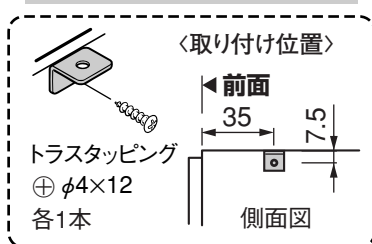
守らないと、シンク下ユニットの扉をまっすぐに取り付けにくくなります。

※カウンターをフロアユニットに載せた際に、すき間が発生した場合は、カウンターを上から押さえつけ、すき間のないよう固定してください。

⚠警告

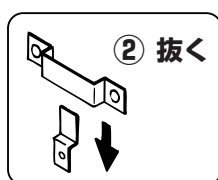
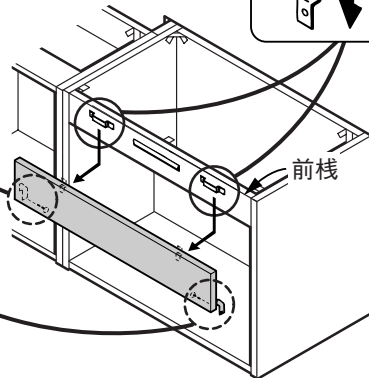
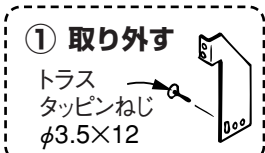
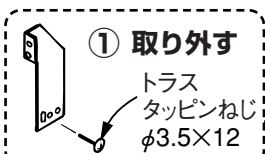
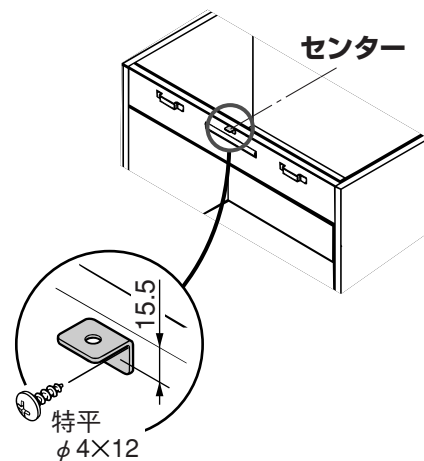
- **指定のねじで固定する**
  長いねじを使用すると、カウンター表面にねじ先が飛び出て、けがの原因になります。
- **ステンレスカウンター・シンクは、必ず手袋をして取り扱う**
  けがをするおそれがあります。

D600の場合

1 カウンター固定用L金具の取り付け

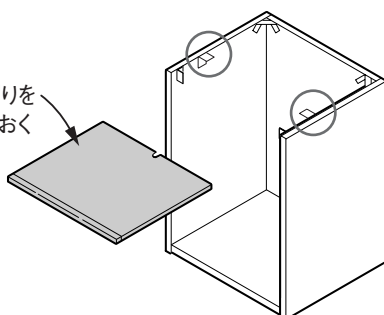
下記の取り付け位置にL金具を取り付ける。
（下穴がある場合は下穴位置に取り付ける。）

シンク下ユニットの両サイド

シンク下ユニットの前桟

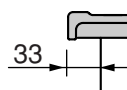
1. シンク幕板を外す。

①左右のねじを取り外す。（2か所）
②ユニットの前桟木口に付いている金具からパネル側の金具を抜く。（2か所）

2. 前桟の中央にカウンター固定用L金具を取り付ける。

グリルレスユニットの前部

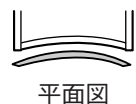
吸気パネルを固定する金具に当たらない位置に取り付ける。

［寸法単位：mm］

2 カウンターの固定

1. フロアユニットに載せる。
2. 人造大理石カウンターL型の場合は、コーナー部を接合する。
3. カウンターとフロアユニットの位置を合わせる。

ユニット前面より33mm出して設置してください。

守らないと、シンク下ユニットの扉をまっすぐに取り付けにくくなります。

✕ 33mmより狭い　✕ 33mmより広い

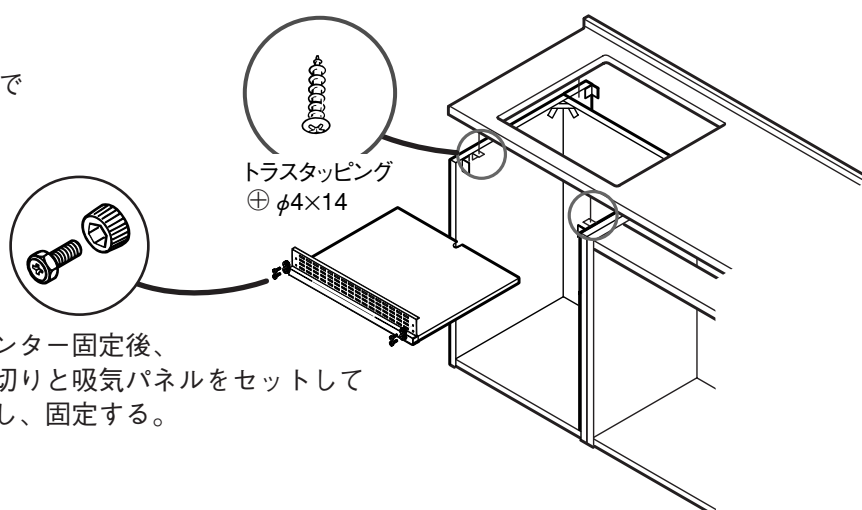
扉　平面図　平面図

4. フロアユニット後部の固定金具、前部の固定金具の順で固定する。
5. シンク幕板を取り付ける。
   取り付けは取り外しと逆の手順で行ってください。
   ※ねじ止め穴は3つあります。目地調整する場合は、他の穴でねじ止めしてください。

■L型人造大理石カウンターの接着

カウンターをフロアユニットに仮置きし、付属のシステムキッチンジョイントセット（〈JN・QR〉65CP■）の取付設置説明書に従い、接着をしてください。

D650・D600共用

グリルレスの場合

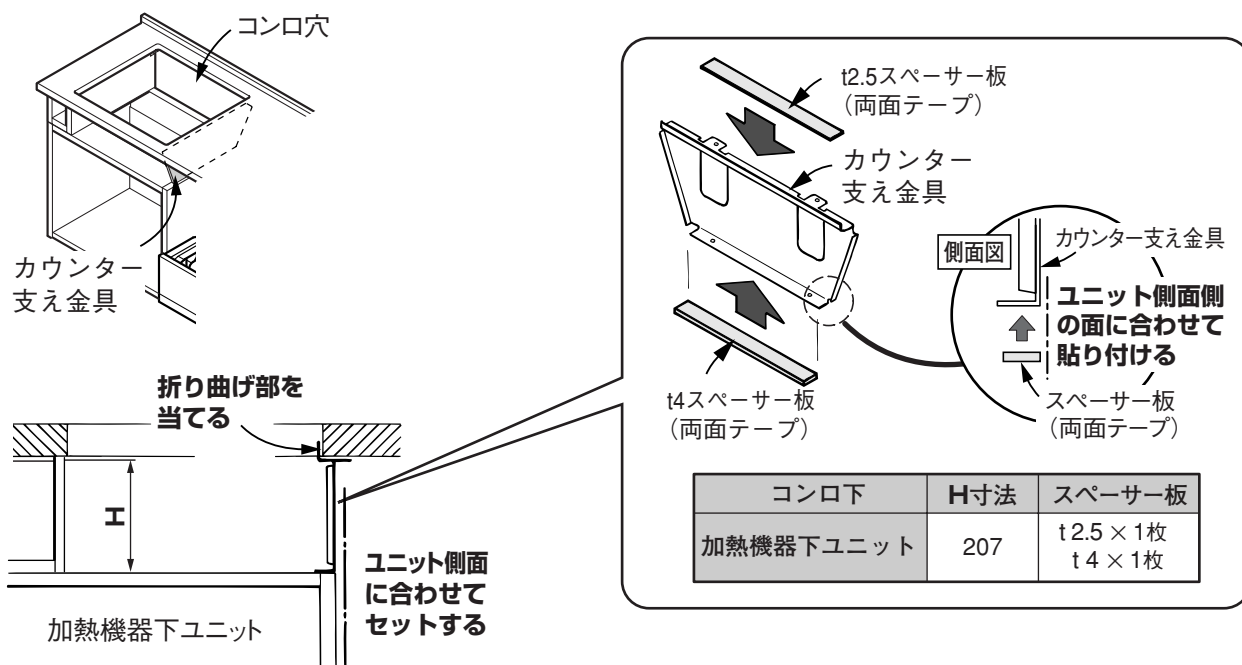
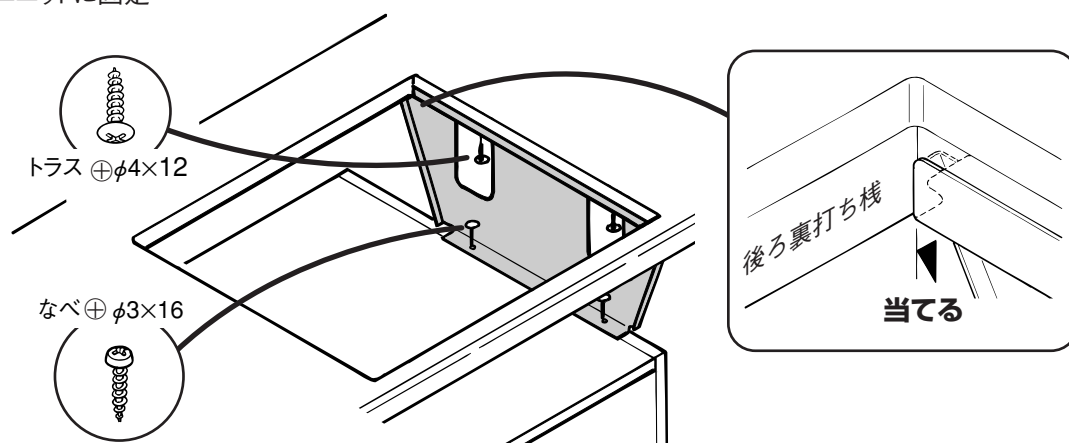
ユニット前部に取り付けた固定金具で同様に固定する。

食器洗い乾燥機横などユニット間に間隔があく場合

■カウンター支え金具の取り付け

1. カウンター取り付け後、隣接ユニットとの高さを調節する。

2. H寸法に合わせて、カウンター支え金具の下側にスペーサー板（両面テープ）を貼り付ける。

3. コンロ穴から支え金具を入れ、所定の位置にセットする。

コンロ下	H寸法	スペーサー板
加熱機器下ユニット	207	t 2.5 × 1枚 t 4 × 1枚

4. カウンター支え金具を、カウンター裏桟と加熱機器下ユニットに固定する。

3 バックガードカバーの取り付け

人造大理石カウンターの場合のみ

人造大理石カウンターでプランされている場合のみ、
取り付けてください。
バックガードカバー付属の取扱説明書を参照してください。

［寸法単位：mm］

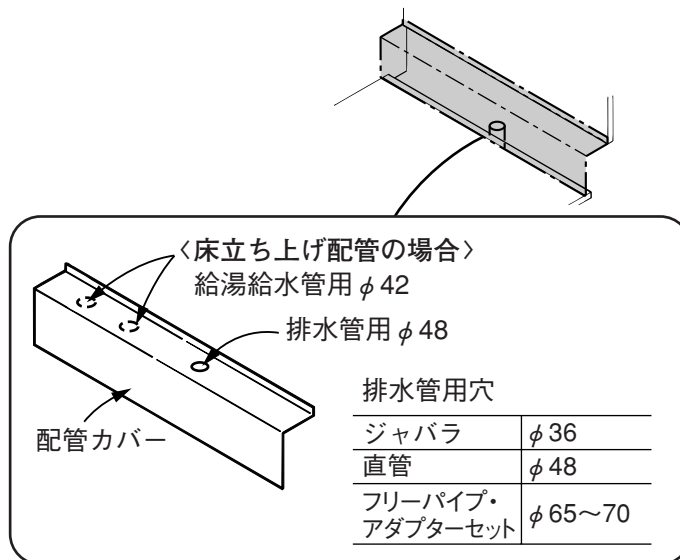
7 排水セットの取り付け

1 配管カバーの設置

1. 配管カバーをユニットから外す。
2. 配管カバーに排水管の配管を通す穴をあける。
   ※排水管の位置に合わせてあけてください。
3. 給湯給水管が床立上げ配管の場合は、配管を通す穴をあける。
   ※給湯給水管の位置に合わせてあけてください。
4. 穴加工後、配管カバーをユニットに設置する。

※配管カバーのねじ固定は排水トラップ取り付け後に行いますので、ここで固定しないでください。
（排水ホースの取り付けができなくなります。）

排水管用穴

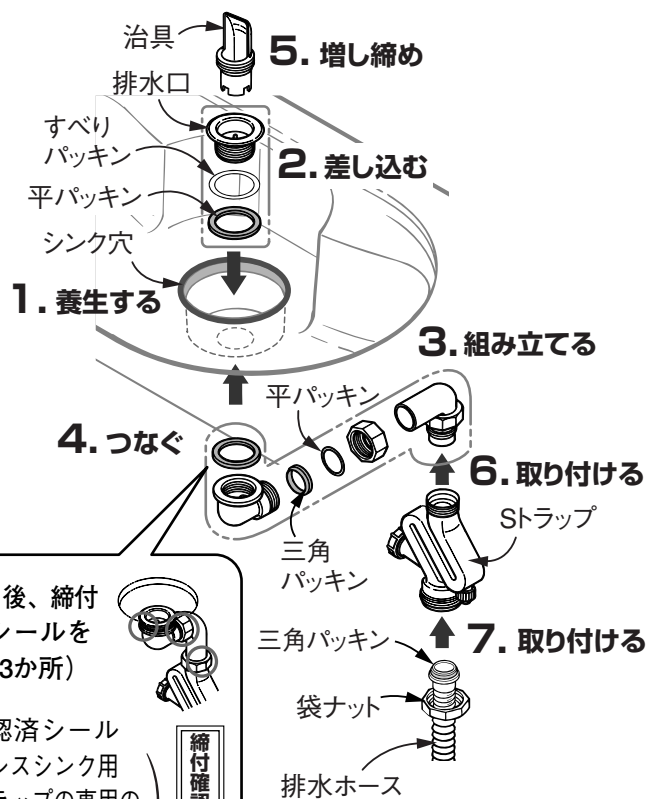
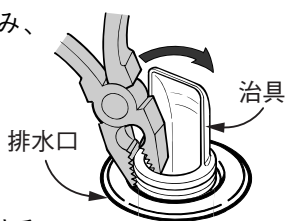
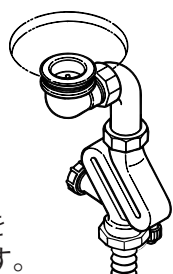
ジャバラ	φ36
直管	φ48
フリーパイプ・アダプターセット	φ65～70

2 水栓の取り付け

●取り付け穴のない機種は穴あけが必要です。
●取り付け穴径と水栓本体の取り付けは水栓付属の取付設置説明書を参照してください。

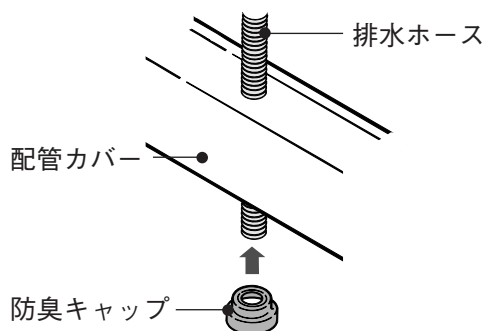
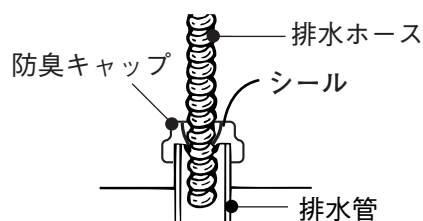
3 排水トラップの取り付け

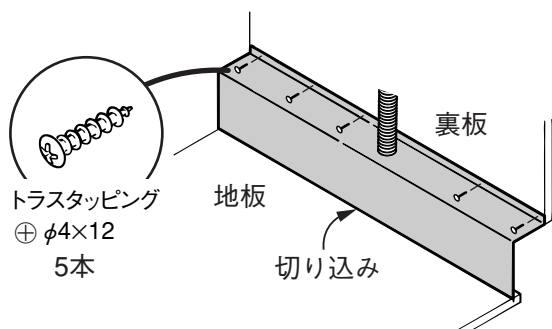
スキマレスシンクの場合 ※図はクリアタイプの場合です。スキマレスシンク以外は、排水セットに付属の取付設置説明書を参照してください。

1. シンク穴を養生する。
2. シンク穴に排水口を差し込む。
3. Sトラップ以外の排水セットを組み立てる。
4. 排水口と排水セットをつなぎ、治具で手締めする。
5. ペンチで治具をつかみ、増し締めする。

6. Sトラップを取り付ける。
7. Sトラップのホース接続部に排水ホースを差し込み、袋ナットを締め付ける。

取り付け後の確認 シンクに水を満水にして、各接続部に水漏れがないことを確認する。

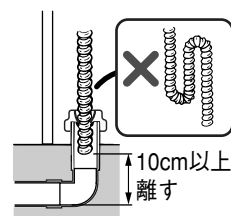
4 配管カバーの貼り付け

1. 排水ホースを配管カバーに通し、防臭キャップを差し込む。

2. 排水ホースがたるまない位置まで、防臭キャップを排水ホースに差し込み、溝に接着剤または、シール材を塗布して排水管に確実に取り付ける。
※排水ホースが長い場合は適切な長さに切断してください。

※防臭キャップを排水管に密着させてください。

3. 配管カバーの手前側をユニット地板の切り込みに差し込み、裏板にねじ固定する。

⚠注意

禁止

排水ホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けない

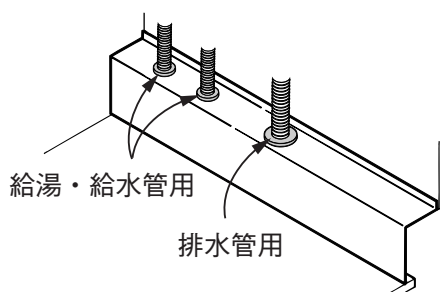
排水能力が低下してシンクから水があふれ、周囲を汚損するおそれがあります。
ホースを適切な長さに切断してください。

防臭キャップと排水管の接続は接着剤またはシーリング材で必ずシールする

シールが不完全な場合、湯気が上がり、ユニットや床などが腐るおそれがあります。

※配管カバーの取り付けは水平を確保して取り付けてください。

5 キャップの貼り付け

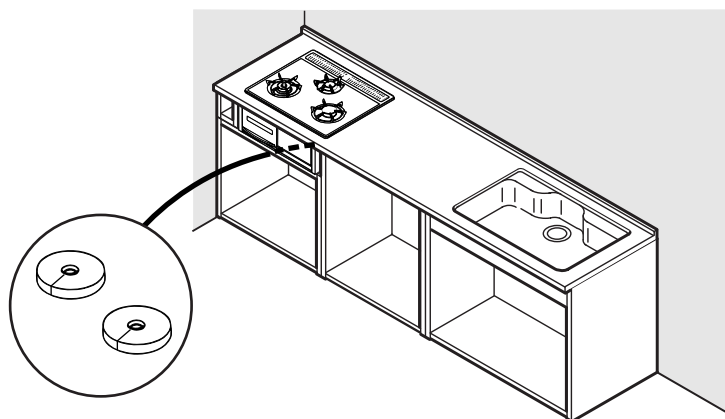
シンク下ユニットに付属のキャップを給湯・給水管および排水管引き込み部に貼る。
（配管径に合わせて加工して取り付ける。）

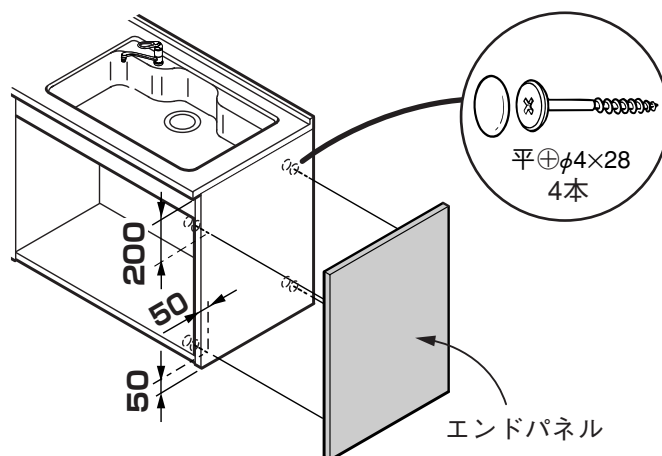
［寸法単位：mm］

8 機器の取り付け

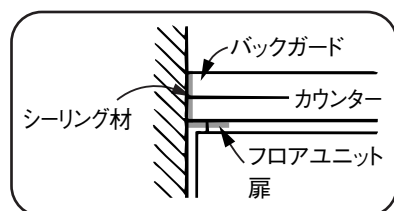
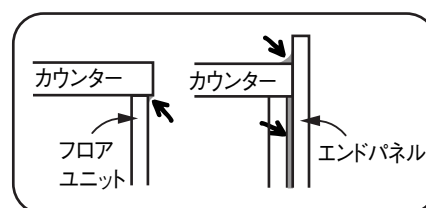
1 機器の設置

加熱機器やその他の機器の取り付けは、
それぞれの機器本体に付属の取付設置
説明書に従い、正しく設置してください。

2 キャップの貼り付け

シンク下ユニットに付属のキャップを
ガス管引き込み部に貼る。

9 エンドパネルの取り付け

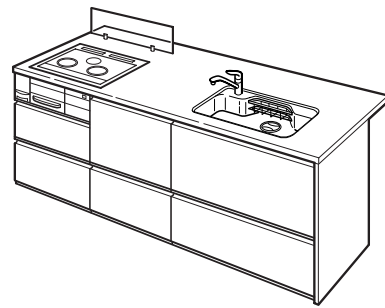
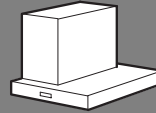
ユニット内側から付属の連結ねじで
エンドパネルを取り付け、キャップを
する。

10 目地処理

ユニット・壁面とエンドパネルとの
すき間をシーリング材でシールする。

⚠注意

カウンターとエンドパネル、壁の合わせ部は、シーリング材で必ずシールする

シールが不完全な場合、水こぼれでエンドパネルや床、および壁を傷めるおそれがあります。

フード部などプランに合わせてキッチンボードを貼ってください。

フラット対面プラン

取り付け前の確認

［寸法単位：mm］

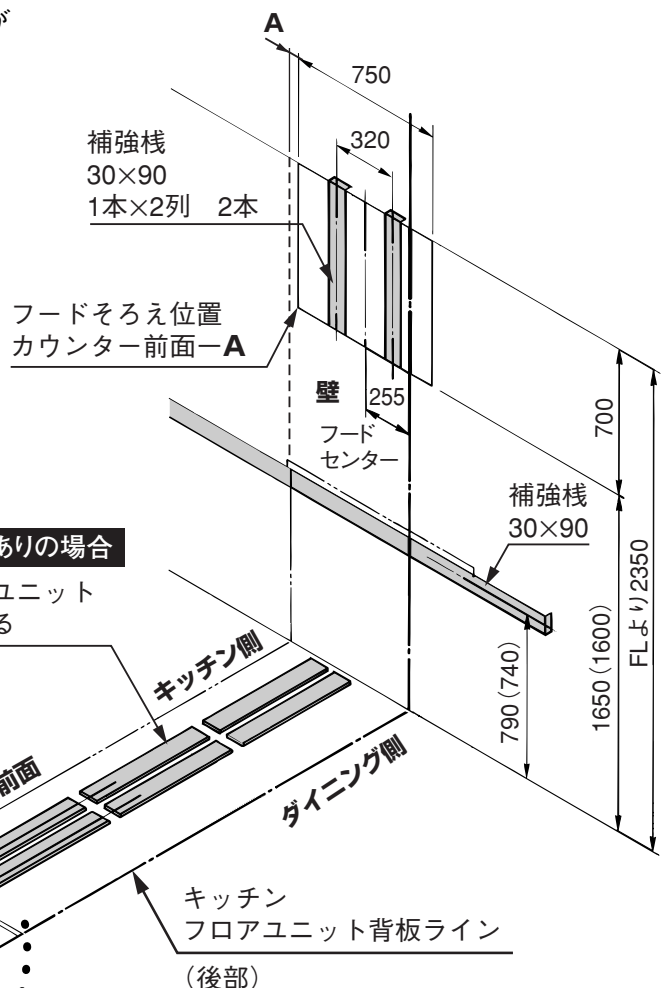
1 補強桟の取り付け寸法と取り付け要領

補強桟位置はプランによって異なりますので、商品に合わせて、右図を参照に取り付けてください。

※仕上げがタイル圧着貼りなどの場合は、その下地材の厚みが12mm以上の耐水合板または、同等品以上の強度がある場合は、補強桟の取り付けは不要です。

※フロアストッカー付ユニットを取り付ける場合で、床仕上げを後貼りする場合は、ユニット下に床材と同じ厚み分の床のかさ上げをしてください。

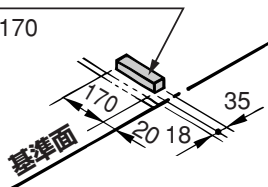
A部寸法はフードによって異なります。ご確認ください。

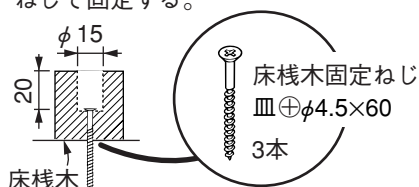
⚠警告

壁面に右図の補強桟が強固に固定されていることを確認する
補強桟は腐れのない補強桟を使用する
フードなどが落下してけがをするおそれがあります。

フロアストッカーなしの場合

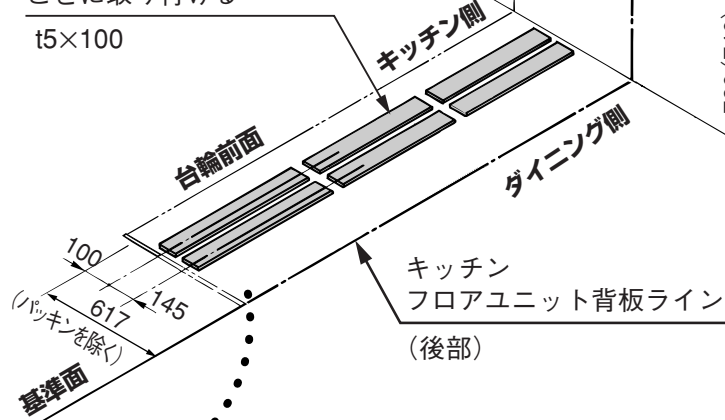
桟木はオープン側ユニット下に取り付ける

□35×170

170
35
20
18
基準面

床桟木の取り付けかた

図のように座ぐりを入れ、床桟木固定ねじで固定する。

フロアストッカーありの場合

桟木は設備するユニットごとに取り付ける

t5×100

※（　）内寸法はカウンター高さH800の場合。

［寸法単位：mm］

⚠警告

ガス機器、カランの取り付け、換気扇、その他オプション商品の取り付けおよび取り扱いは、
それぞれの取付設置説明書や注意表示などに従い、正しく取り付ける

2 給湯・給水・排水配管工事

●本説明書の「**壁付I型・L型プラン**」（7ページ）を
ご参照の上、正しく取り付けてください。

水道工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う
水漏れの原因になることがあります。

3 ガス配管工事

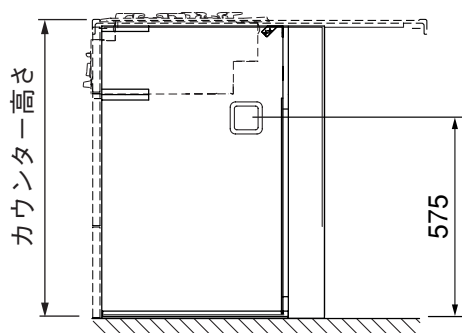
●本説明書の「**壁付I型・L型プラン**」（7ページ）を
ご参照の上、正しく取り付けてください。

⚠警告

ガス工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う
ガス漏れの原因になることがあります。

4 電気配線工事
IHクッキングヒーターの配線

電気工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う
火災の原因になることがあります。

●対面プランは、一般プランと異なり埋め込みコンセントを設ける壁面がありません。
●図のように加熱機器の横に設置のユニットの側板に指定の露出コンセントを取り付けてください。
●露出コンセント種類および一般プランは機器付属の取付設置説明書に従い、正しく取り付けてください。

●その他「加熱機器」「レンジフード」「照明」「食器洗い乾燥機」などの電気配線工事については、
それぞれの取付設置説明書に従い、正しく取り付けてください。

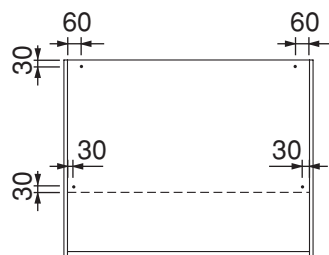
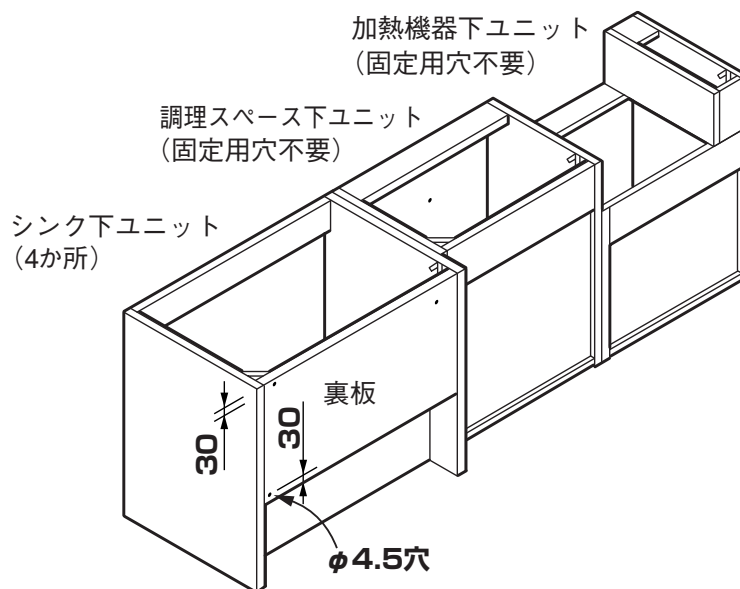
取り付けかた

1　キッチン側フロアユニットの取り付け

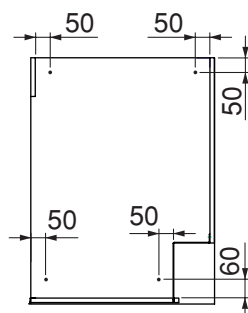
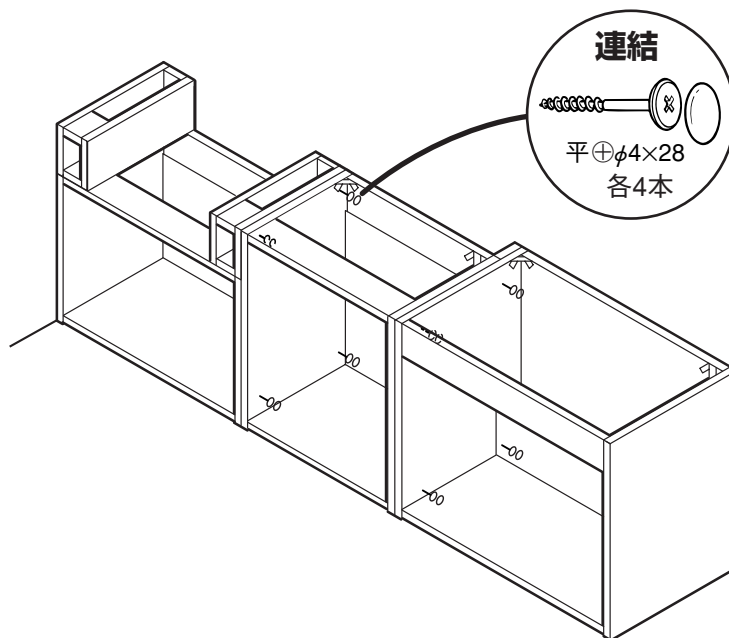
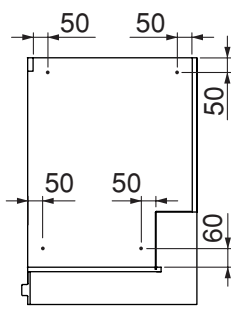
1 設置前の準備

裏板固定用穴あけ

ユニットの裏板にバックパネル固定用穴（φ4.5穴）をあける。

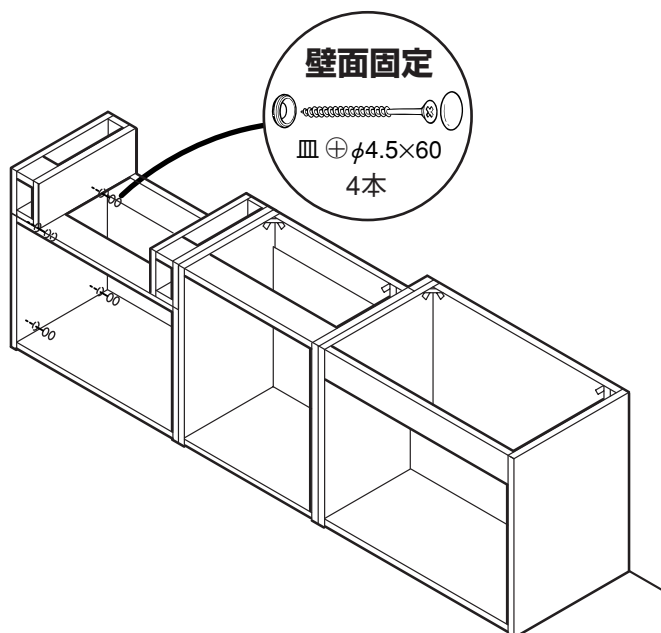
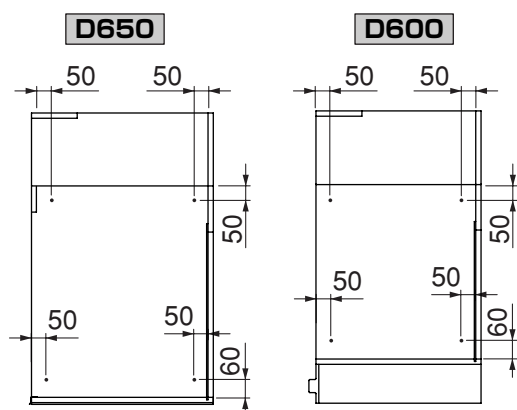
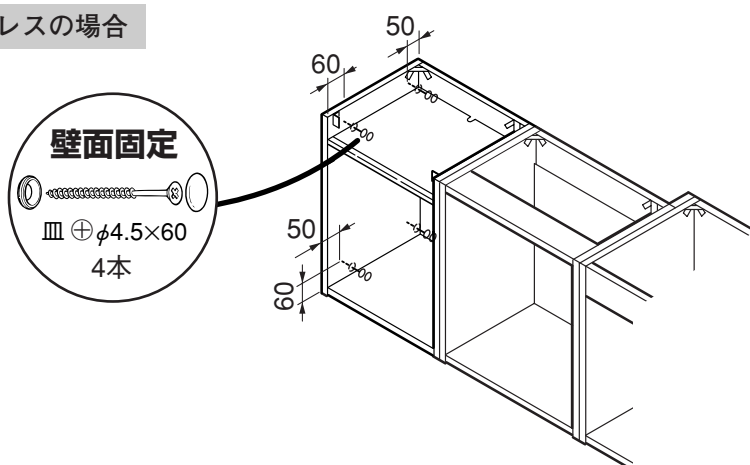
■バックパネル固定位置

2 ユニットの連結

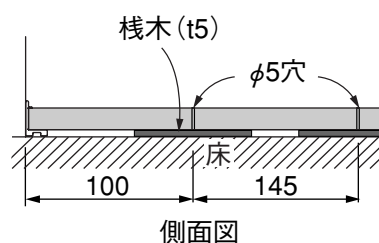
本説明書の「**壁付I型・L型プラン**」（17ページ）をご参照の上、正しく取り付けてください。

■ユニット連結位置

［寸法単位：mm］

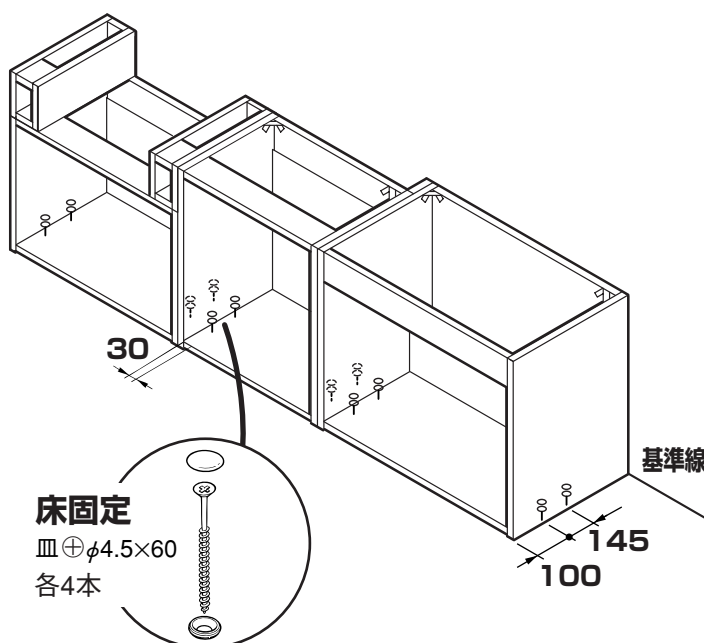
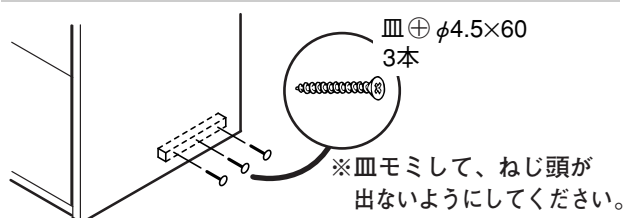
3 壁面固定

本説明書の「**壁付I型・L型プラン**」(17ページ)をご参照の上、正しく取り付けてください。

■壁面固定位置

グリルレスの場合

4 床固定

フロアストッカーユニットの底板にφ 5穴を4か所開け、床に固定する。

側面図

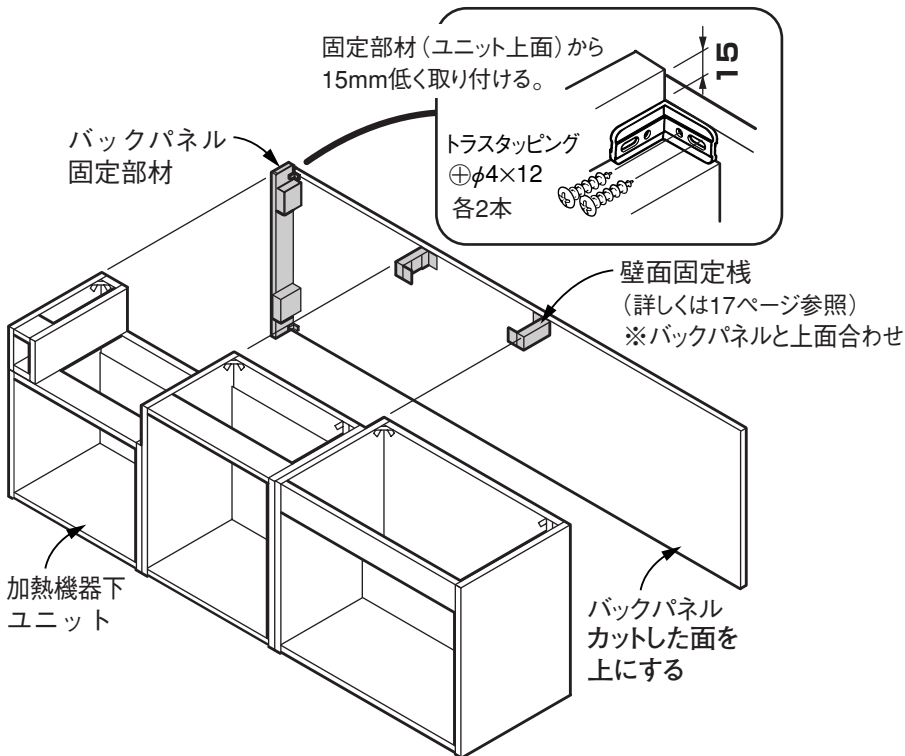
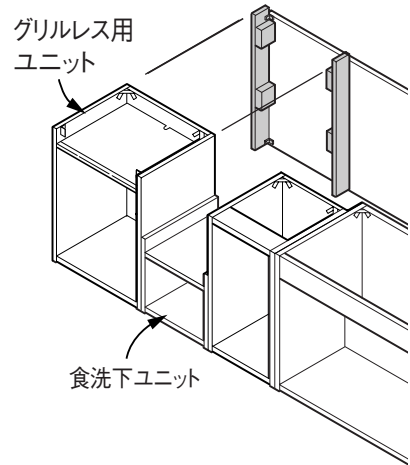
フロアストッカーなしの場合

※皿モミして、ねじ頭が出ないようにしてください。

2 バックパネルの取り付け

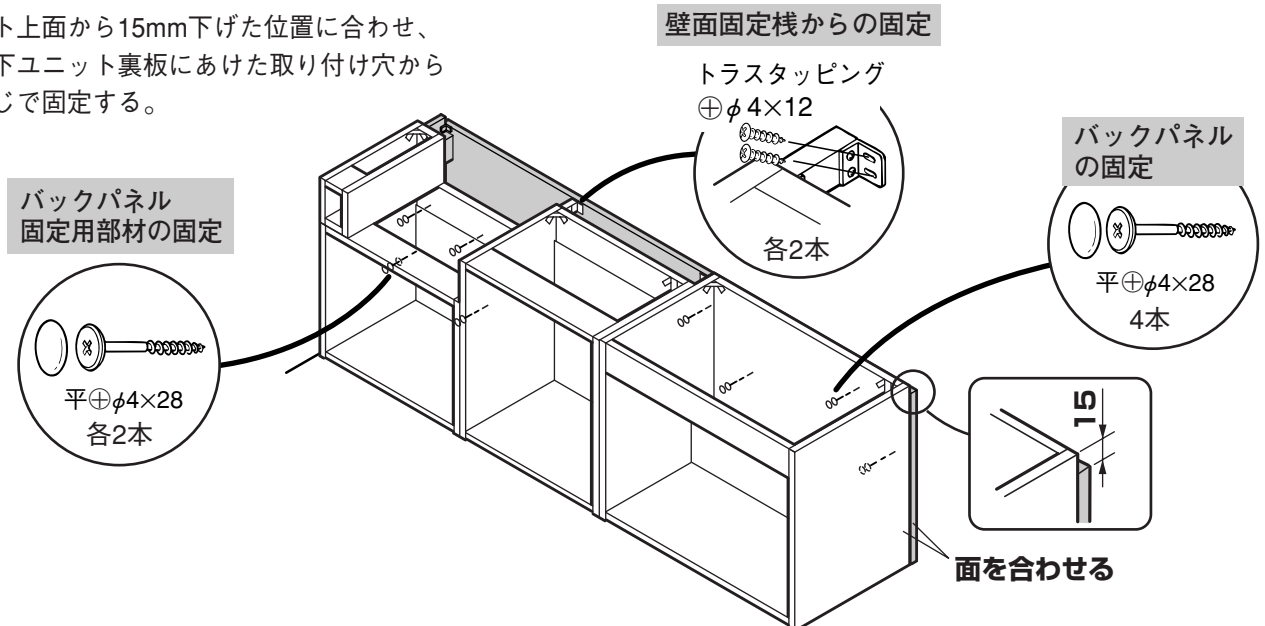
1 バックパネルの切断

バックパネルを現場合わせでカットする。
※ユニット上面から15mm低くする。

2 バックパネル固定部材・壁面固定桟の取り付け

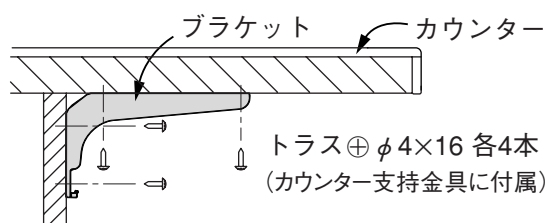
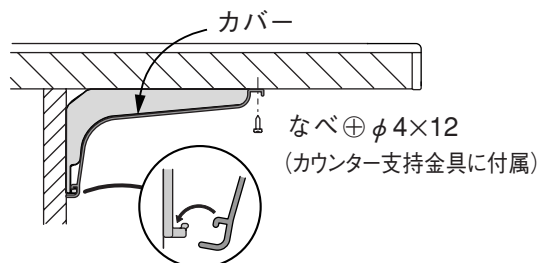
バックパネルにバックパネル固定部材・壁面固定桟を固定する。

3 バックパネルの取り付け

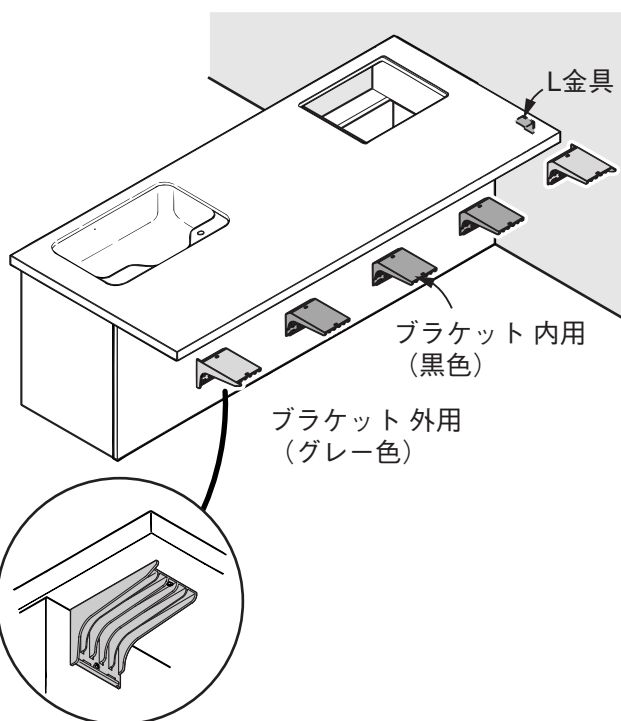
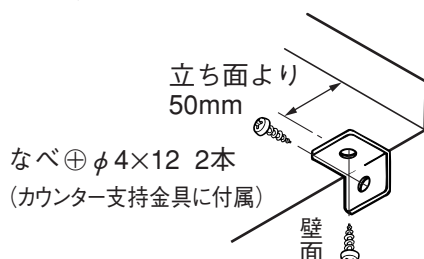
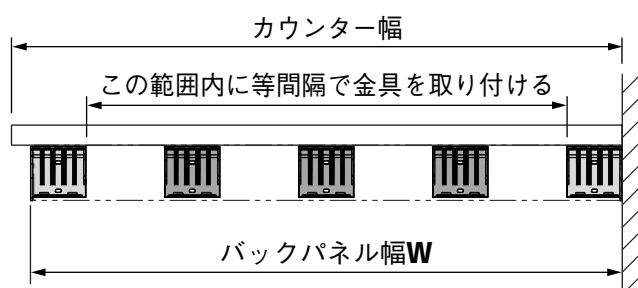
ユニット上面から15mm下げた位置に合わせ、
シンク下ユニット裏板にあけた取り付け穴から
連結ねじで固定する。

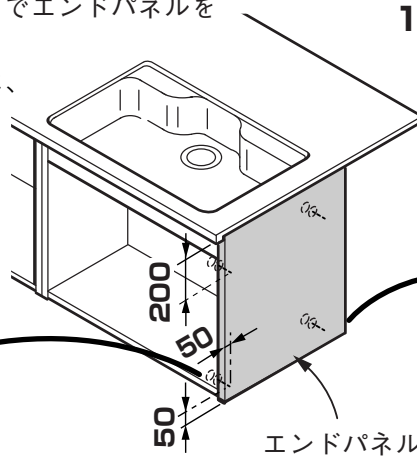
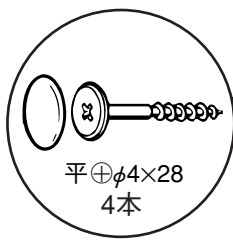
［寸法単位：mm］

3 カウンターの設置

カウンター・水栓・排水装置の取り付け、排水管接続は本説明書の「**壁付I型・L型プラン**」と同様の取り付けかたです。
内容をよく読み正しく設置してください。

4 カウンター支持金具の取り付け

1. ブラケットを等間隔で取り付ける。

2. カバーのフック部をブラケットのフック部に引っ掛けて、カウンターに固定する。

3. 付属のL金具にてカウンターを壁面に固定する。

［寸法単位：mm］

5 エンドパネルの取り付け

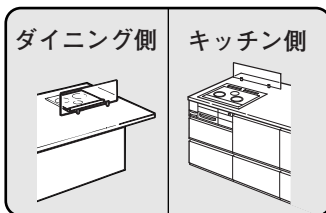
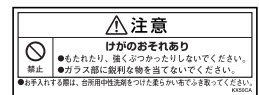
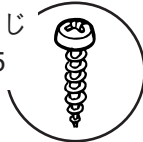
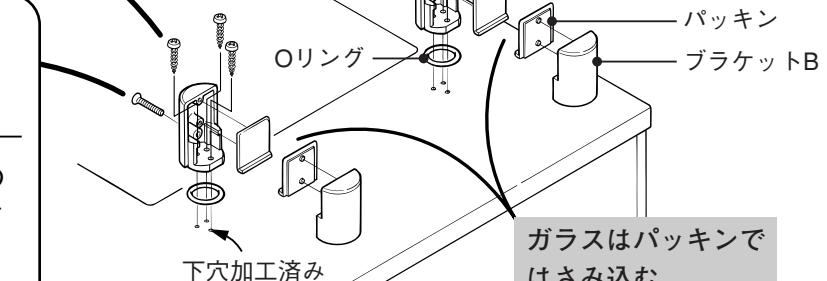
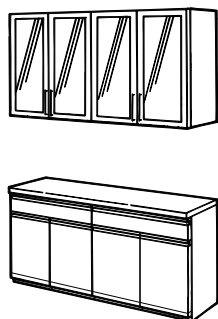
ユニット内側から付属の連結ねじでエンドパネルを取り付け、キャップをする。
エンドパネルをカットする場合は、上部を切断してください。

6 目地処理

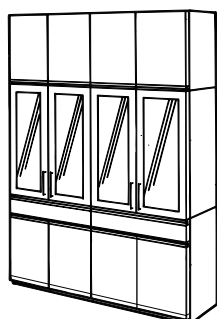
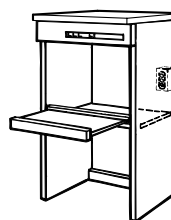
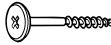
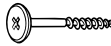
本説明書の「**壁付I型・L型プラン**」（27ページ）をご参照の上、正しく取り付けてください。

フード部などプランに合わせてキッチンボードを貼ってください。

7 クックスクリーンの設置

※詳しくは、クックスクリーンに付属の「取付設置説明書」をご参照ください。

図のようにカウンターにクックスクリーンを取り付ける。

カップボード

カウンタータイプ

トールタイプ

家電収納タイプ

ハイカウンタータイプ

■取付部品箱

［寸法単位：mm］

部品名 ＼ 品番		フロアユニット									
		1ZK01 SSFA	1ZK02 SSFA	1ZK03 SSFA	1ZK04 SSFA	1ZK05 SSFA	1ZK06 SSFA	1ZK07 SSFA	1ZK08 SSFA	1ZK09 SSFA	1ZK10 SSFA
金具セット	キャップねじ 平⊕φ4×28	10	14	20	26	34	50	100	100	110	120
	皿⊕φ4.5×60	10	12	12	12	16	16	16	16	16	16
	トラスタッピング⊕φ4×18	4	6	8	8	10	12	14	16	17	19
	トラスタッピング⊕φ4×14	4	6	8	10	12	14	16	18	20	20
	トラスタッピング⊕φ3.5×12	12	15	18	18	20	20	25	25	30	30
	L金具 4つ穴	4	4	6	6	6	6	8	8	10	10
	樹脂キャップ	20	26	32	38	50	66	116	116	126	136
	連結ワッシャ	10	12	12	12	16	16	16	16	16	16

部品名 ＼ 品番		ウォール・ミドルユニット									
		1ZK01 SSWA	1ZK02 SSWA	1ZK03 SSWA	1ZK04 SSWA	1ZK05 SSWA	1ZK06 SSWA	1ZK07 SSWA	1ZK08 SSWA	1ZK09 SSWA	1ZK10 SSWA
金具セット	キャップねじ 平⊕φ4×28	14	24	24	31	35	38	48	62	72	82
	皿⊕φ4.5×60	4	8	12	18	22	26	30	34	38	42
	樹脂キャップ	18	32	36	49	57	64	78	96	110	124
	連結ワッシャ	4	8	12	18	22	26	30	34	38	42
	ウォールユニット取付治具	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	クリアバンボン	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

取り付け前の確認

1 補強桟の取り付け寸法と取り付け要領

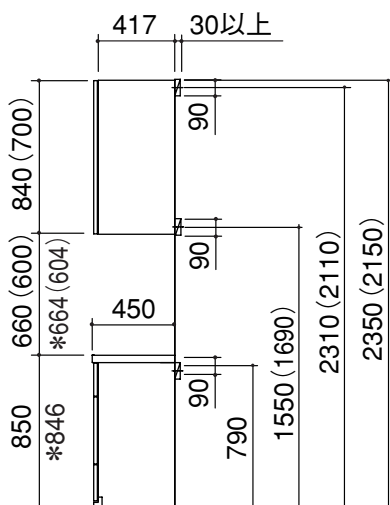
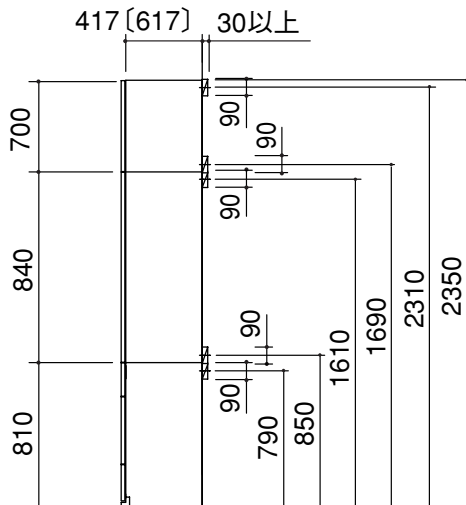
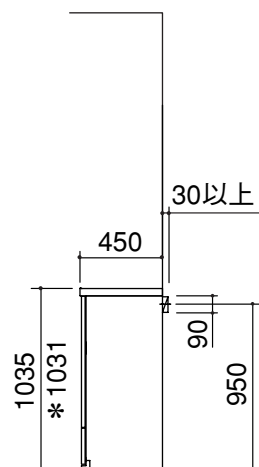
補強桟の位置はプランによって異なりますので、商品に合わせて、下図を参照に取り付けてください。

※仕上げがタイル圧着貼りなどの場合は、その下地材の厚みが12mm以上の耐水合板または、同等品以上の強度がある場合は、補強桟の取り付けは不要です。

※フロアストッカー付ユニットを設置する場合で、床仕上げを後貼りする場合は、ユニット下に床材と同じ厚み分の床のかさ上げをしてください。

⚠警告

壁面に右図の補強桟が強固に固定されていることを確認する
補強桟は腐れのない補強桟を使用する
ユニットなどが落下してけがをするおそれがあります。

カウンタータイプ

トールタイプ

ハイカウンタータイプ

＊印寸法は、ネブラカウンター（人大）の場合の寸法です。ご注意ください。

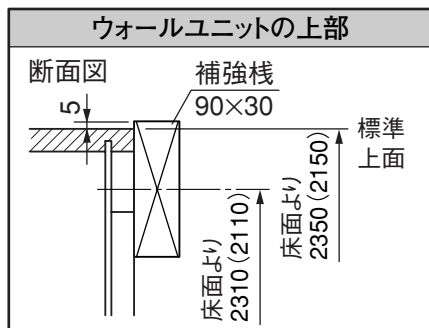
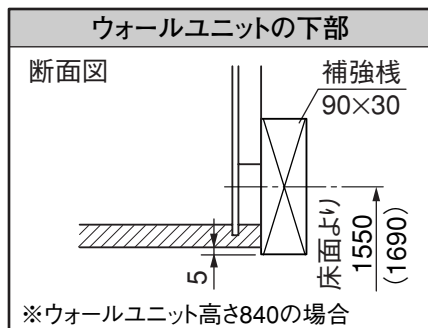
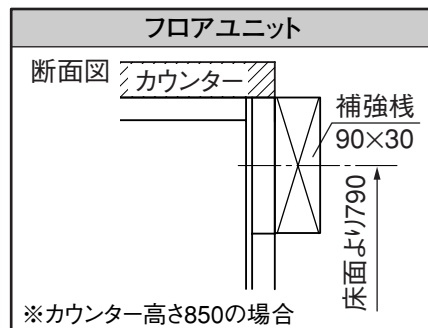
ウォールユニットの上部

ウォールユニットの下部

※ウォールユニット高さ840の場合

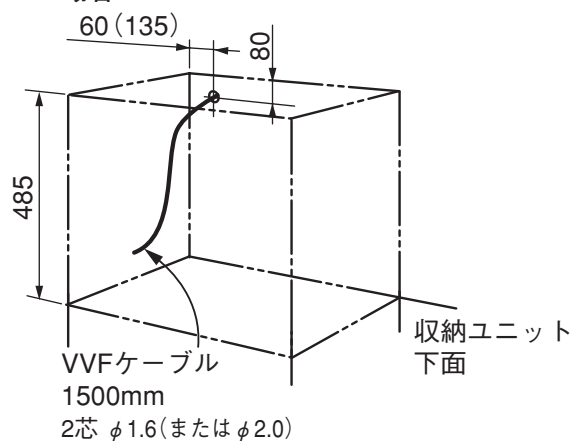
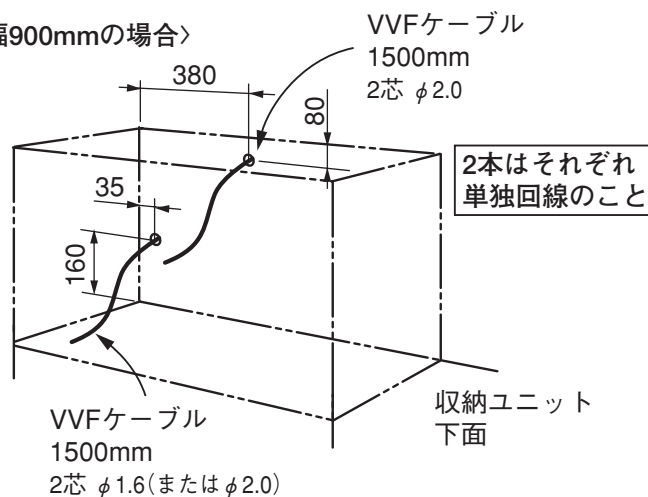
フロアユニット

※カウンター高さ850の場合

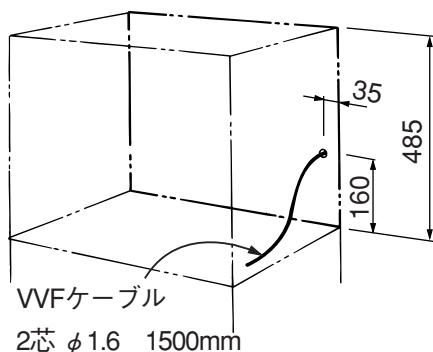
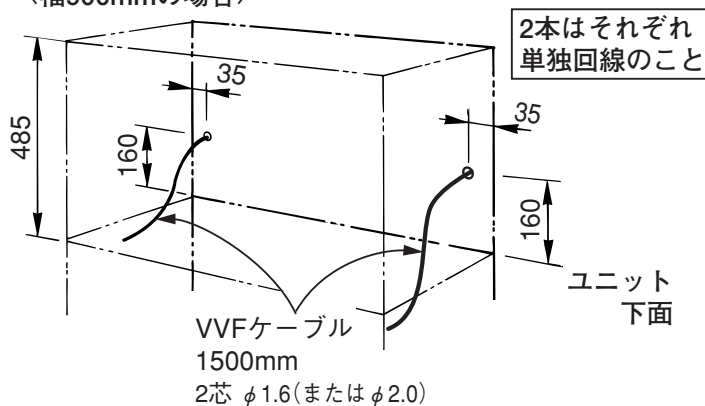
［寸法単位：mm］

2 電気配線工事
（家電収納の場合）

⚠警告	電気工事は、関連する法令・規程に従って、必ず「有資格者」が行う 火災の原因になることがあります。

蒸気処理機能付き家電収納用ユニット

〈750mmの場合〉

〈幅900mmの場合〉

蒸気処理機能なし家電収納用ユニット

〈750mmの場合〉

〈幅900mmの場合〉

取り付けかた

1 ウォールユニットの取り付け（単独設置の場合）

●本説明書の**「壁付I型・L型プラン」**（9〜11ページ）をご参照の上、正しく取り付けてください。
※ウォールユニットをミドルユニットの上に載置する場合は、フロアユニット・ミドルユニットを設置後、上下連結し、壁面固定をしてください。

2 上幅木の取り付け

●本説明書の**「壁付I型・L型プラン」**（11ページ）をご参照の上、正しく取り付けてください。

3 フロアユニットの取り付け

1 設置前の準備

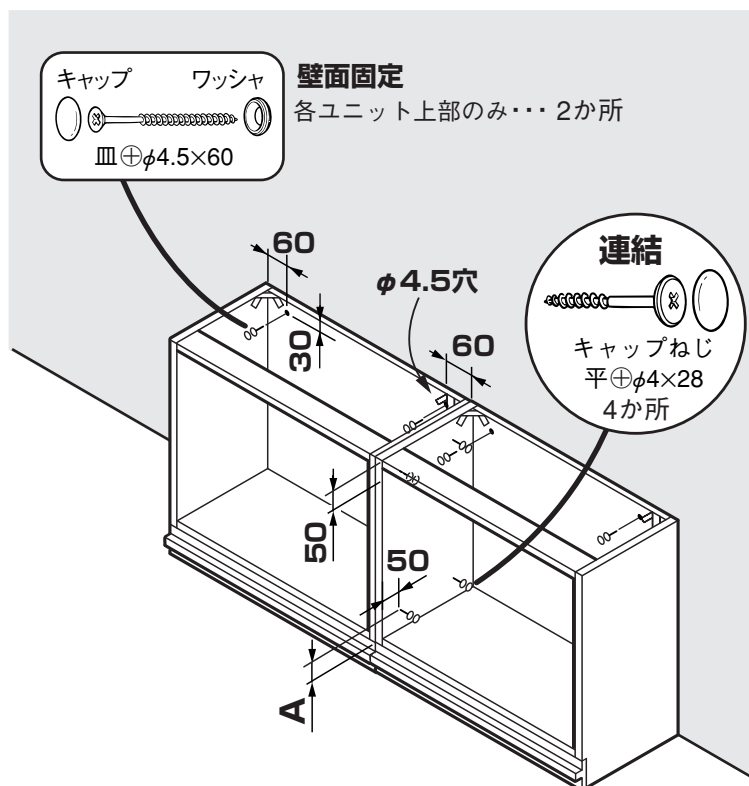
引出しを取り外す。
（15ページをご参照ください。）

（15ページをご参照ください。）

2 ユニットの連結

隣のユニットと前面および上面を合わせて、付属の連結ねじでユニットを連結し、連結後キャップをはめる。

■ユニット連結A寸法

ユニット	A寸法
1段引出し付 開きユニット	80
3段引出し付 ユニット	60
家電収納用 ユニット ●蒸気処理あり ●蒸気処理なし	50

3 壁面固定

ユニットの前倒れ防止のため、裏板に穴をあけて壁面に固定する。
※スライドラック、引出しタイプのユニットは必ず壁面に固定する。

オープンユニットの場合

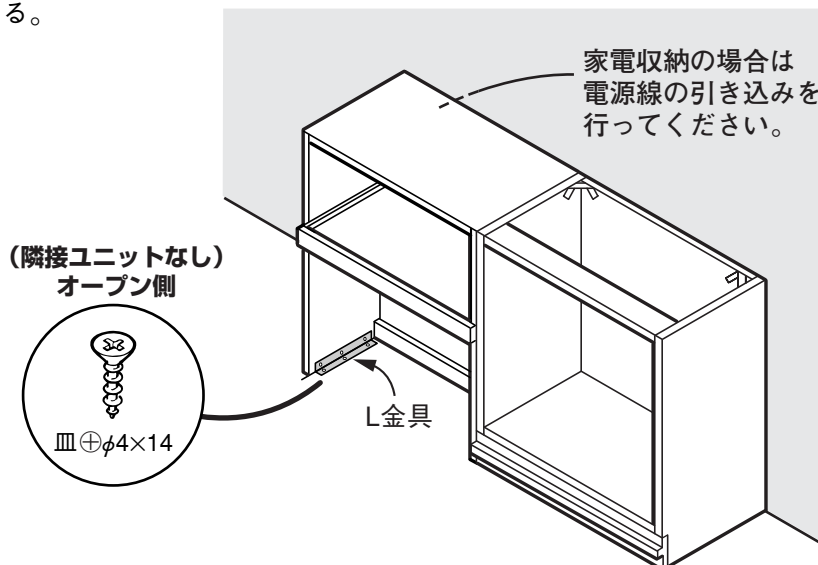
オープンユニットの横にユニットが設置されない場合、側板と床を部品袋のL金具にて固定する。

■部品袋明細

部品名	入り数
L金具	1
L金具取り付けねじ 皿⊕φ4×14	6
壁面固定ねじ※ 皿⊕φ4×50	2
キャップねじ※ 平⊕φ4×28	4

※ねじ不足部でお使いください。

［寸法単位：mm］

カウンターを設置する場合

1. フロアユニットにカウンターを載せる。

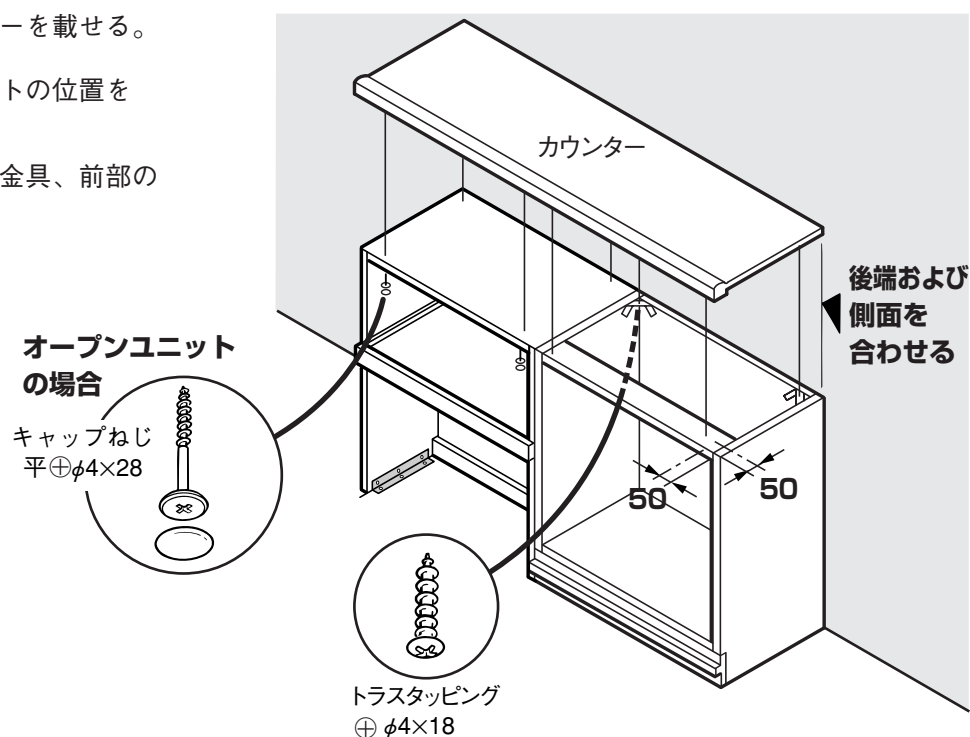
2. カウンターとフロアユニットの位置を合わせる。

3. フロアユニット後部の固定金具、前部の固定金具の順で固定する。

4 ミドルユニット・ウォールユニットの設置（トールタイプの場合）

1 連結

フロアユニット・隣接ユニットと面合わせし、連結する。

⚠注意
指定位置に確実に固定を行う ユニットが転倒してけがの原因となります。 **ユニットは確実に連結する** ユニットが落下・転倒してけがの原因となります。

連結
キャップねじ
平⊕φ4×28
連結位置
4か所
40
40
側板
40
40
ミドルユニット
合わせる
連結
キャップねじ
平⊕φ4×28
上下連結位置
4か所
40
40
40
40
平面図
トラスタッピング
⊕φ4×14
〈固定金具の場合〉
フロアユニット

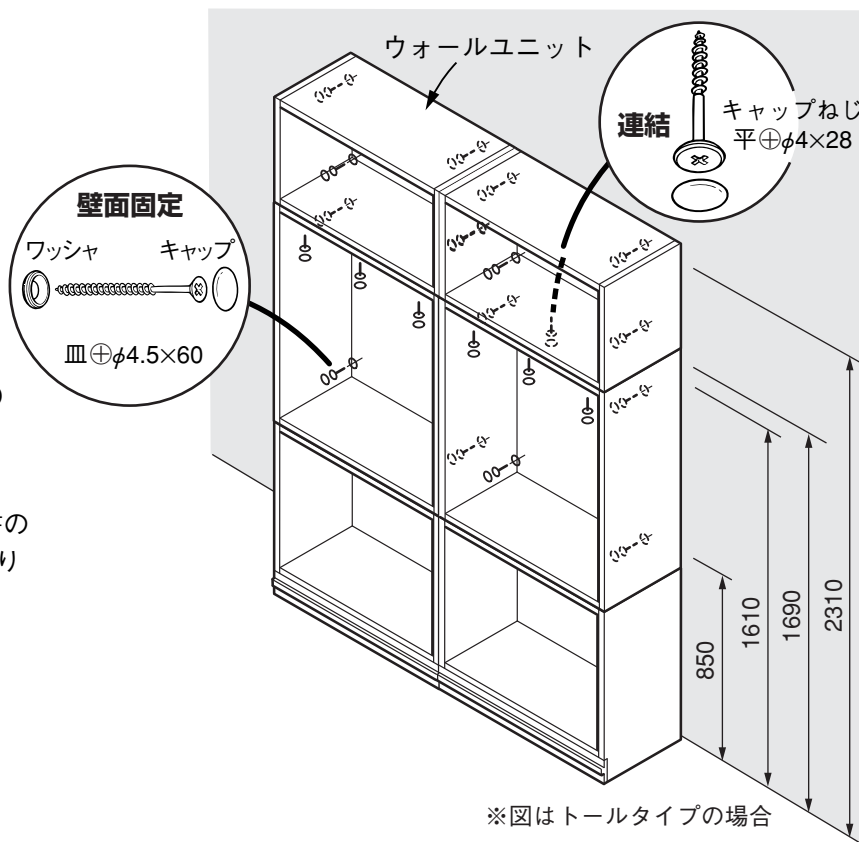
［寸法単位：mm］

2 壁面固定

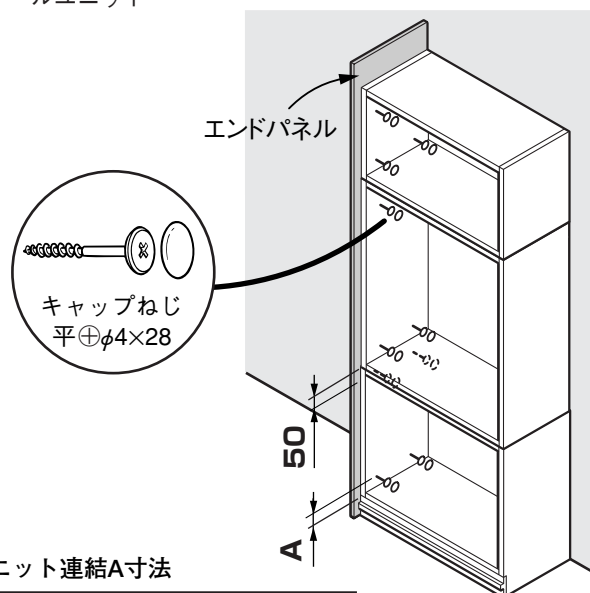
ウォールユニットと上下連結した後、ミドルユニット・ウォールユニットを壁面固定する。

※家電収納ユニットの場合は上下左右の連結のみ行ってください。壁面固定は不要です。

※ウォールユニットの固定は、本説明書の9～11ページをご参照の上、正しく取り付けてください。

※図はトールタイプの場合

5 エンドパネルの取り付け

エンドパネルを現場合わせでカットし、連結ねじでユニットに連結する。

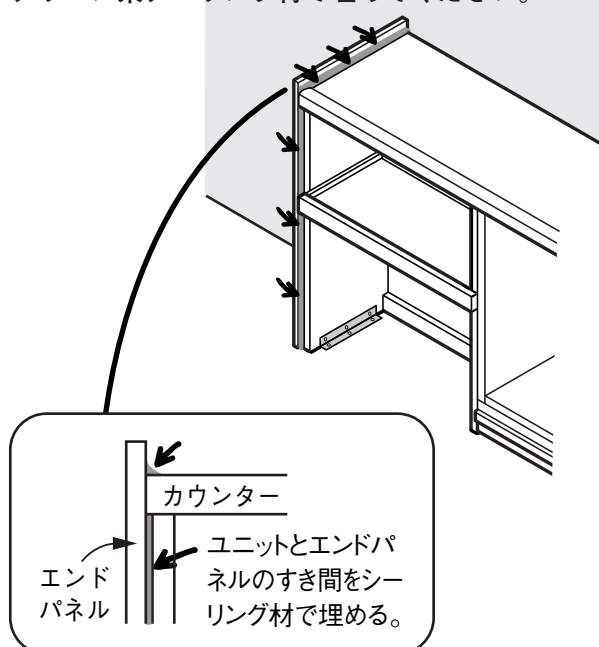
- ●フロアユニット ・・・ 上部2か所／下部2か所
- ●ミドルユニット ・・・ 上部1か所／下部2か所
- ●ウォールユニット

■ユニット連結A寸法

ユニット	A寸法
1段引出し付開きユニット	80
3段引出し付ユニット	60
家電収納用ユニット	50

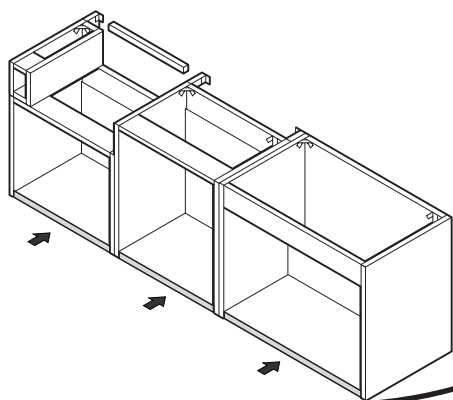
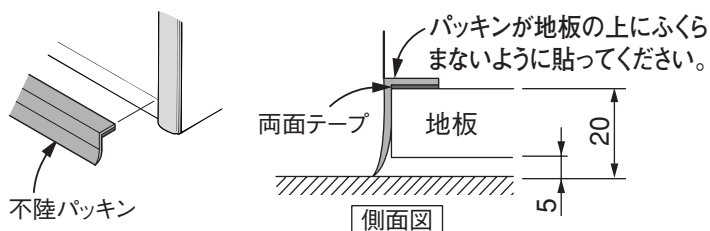
6 目地処理

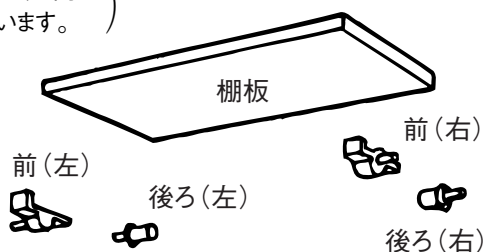
ユニットとエンドパネルとのすき間をシーリング材でシールする。

※すき間は全体に均一になるよう固定ねじを調整してください。すき間が大きい場合はユニットの左右でふり分けてください。

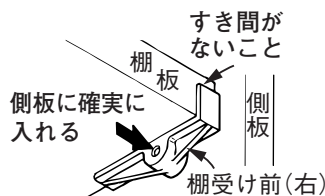
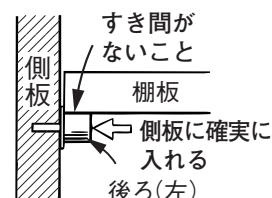
カウンターとエンドパネルのすき間は、同系色のシリコン系シーリング材で埋めてください。

部材の取り付け

1 不陸調整部のすき間処理

ユニットに付属の不陸パッキン（引出しに1個付属）を貼り付ける。

2 棚の取り付け

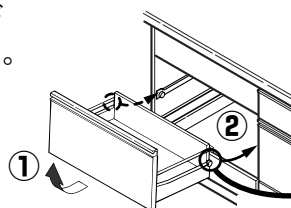
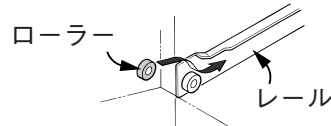
棚板はユニットに付属しています。
棚受けには前後があります。
（棚受けはユニット内に貼り付けています。）

⚠注意

棚受けのユニットへの取り付け、棚のセットは確実に行う

棚板が落下し、けがをするおそれがあります。

3 引出しの取り付け

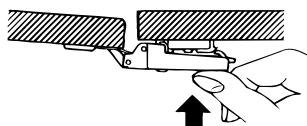
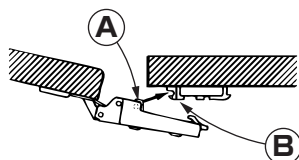
引出しを入れた後は、2、3回開閉して必ず引出しが確実に取り付けられていることを確認してください。

①引出しのローラーをレールのローラーの奥に下ろす。

②奥に押す。

4 扉の取り付け

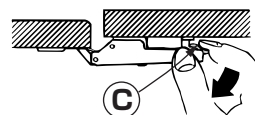
取り付け（ちょう番の固定）

1. Ⓐ を Ⓑ に差し込む。

2 「ガチッ」と鳴るまで押さえる。

お願い

取り付け後、扉を持って2、3回開閉し、丁番が確実に固定されていることを確認してください。

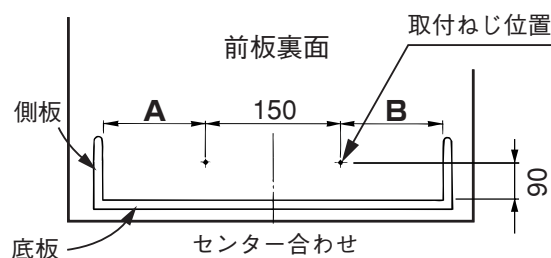
取り外し

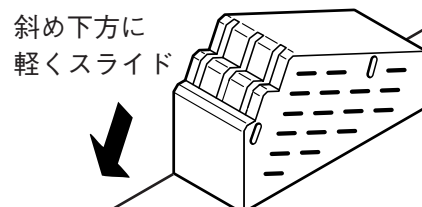
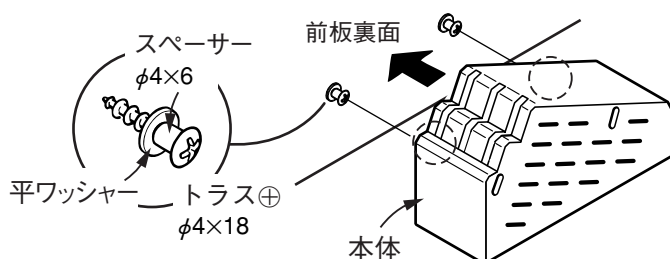
Ⓒをつまんで外す。

5 包丁差しの取り付け

■ななめ包丁差し

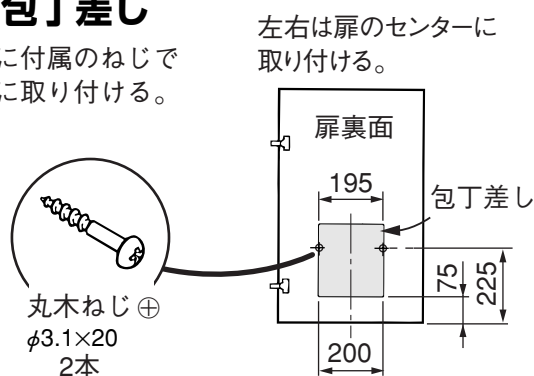
1. 前板裏面に取り付けねじを取り付ける。
（左右の向きの付け替えも右図の寸法で可能です。）

取り付けねじの設置位置

取り付けねじ位置の中心を、前板の中心に合わせる。

※**A**および**B**は105mm以上

2. 本体2か所のカギ型穴部を取り付けねじに差し込み、
本体を斜め下方に軽くスライドさせる。

※収納パーツセット（オプション）を取り付ける際は、位置をずらして取り付けてください。

■開き用包丁差し

包丁差しに付属のねじで
図の位置に取り付ける。

左右は扉のセンターに
取り付ける。

⚠注意

●**必ず指定の位置に固定する**
包丁差しが脱落し、けがをするおそれがあります。

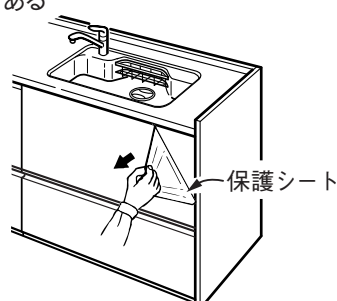
●**必ず包丁差しに付属のねじを使用する**
包丁差しが外れて、けがをするおそれがあります。

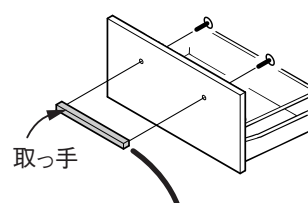
●**設置完了後は、ねじのゆるみや、浮きがないことを必ず確認する**
使用中に包丁差しが外れて、けがをするおそれがあります。

6 保護シートのはがしかた

●保護シートの貼ってある扉・取り付け部材は、下図のようにシートをはがしてください。

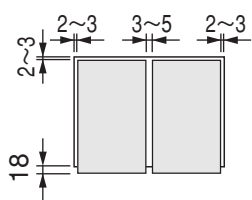
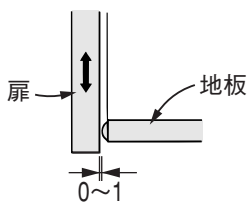
●扉木口のマスキングテープがある場合は、はがしてください。

保護シート

7 取っ手の取り付け

（KDAハンドル取っ手の場合）

調整

［寸法単位：mm］

1 扉の調整

図のように扉を調整する。

⚠注意

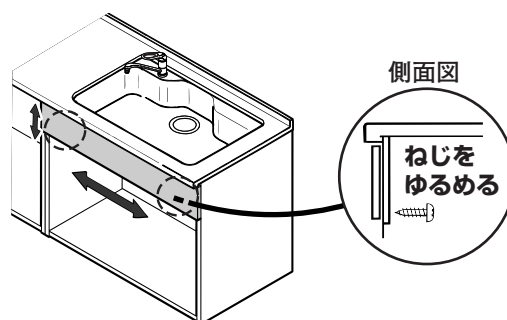
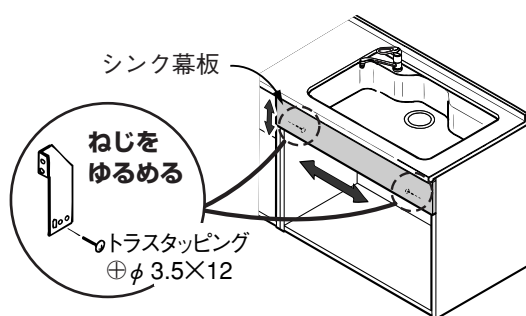
設置完了後、扉の傾き、がたつき、ヒンジの緩みがないことを必ず確認する
使用中に扉が落下してけがをするおそれがあります。

扉の調整は正しく行う
耐震ロックが正常に作動せず、けがをするおそれがあります。

扉の状態	左右に傾いた	扉が前に傾いた	扉が下がってきた
調整方法	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ
	Ⓐを回すと矢印の方向に動く	Ⓑを緩めて扉を前後に移動させ、しっかり締める	Ⓒを緩めて扉を上下に移動させ、しっかり締める

全ての調整が完了後、扉を2〜3回開閉し、扉が確実に固定されたことを確認してください。

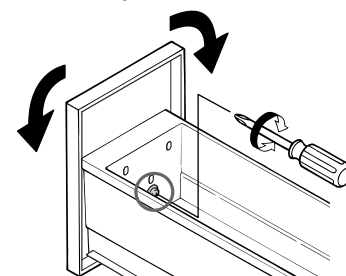
■扉の目地調整（D600の場合）

1. 前板の固定ねじをゆるめ、扉目地の調整を行う。
2. 扉が動かないように押さえながら、ねじを固定する。

2 引出しの調整

引出し（前板）

左右調整	上下調整	傾き調整
図のねじを回して、左右に微調整する。	図のねじを回して、上下に微調整する。	ガイドパイプを回して、傾きを微調整する。
調整・固定 ±1.5mm	±1.8mm 固定 調整	

小引出し

ねじを回して扉を回転させて調整する。

取り付け後の確認

■下記の表に従い、仕上がりをチェックしてください。

	チェック項目	チェック
ユニット	各ユニットの連結は確実に行われているか。	
	壁面との固定は確実に行われているか。	
	ユニット内に傷、汚れ、残材はないか。	
	各キャップ類は取り付けてあるか。	
	ガス引き込み部にシーリングプレートが取り付けてあるか。	
	耐震ロックの輸送用テープは外してあるか。	
カウンター	カウンター表面に傷、汚れはないか。	
	カウンターの水平はよいか。	
	カウンターとバックガードの接続部はよいか。	
扉	扉・引出し前板の調整はできているか。	
	扉の丁番は確実にセットされているか。	
	耐震ロックは確実に機能しているか。	
	扉・部材に貼られている保護シートははがしてあるか。	
排水セット	水漏れはないか。（トラップーシンク トラップーエルボ）	
	防臭キャップは確実に排水管に固定されているか。	
	排水トラップのエルボは確実に差し込まれているか。	
	エルボの三角パッキンの忘れ、方向は間違っていないか。	

	チェック項目	チェック
カラン	カランは確実に固定されているか。	
	湯・水の混合の具合はいいか。	
	カランのレバー、ハンドルのぐらつきなどはないか。	
	吐水口のぐらつきなどはないか。	
フード	フードが正常に作動するか。	
	電球は点灯するか。	
加熱機器	機器の作動は正常か。	
	ガス種は合っているか。	
	ガス元栓はついているか。	
資料	取扱説明書はお客様の目につきやすい場所に置いてあるか。（引出しの最上段など）	
	電気工事・配管工事を行う商品の取付設置説明書は、取り付け事業者に目につきやすい場所に置いてあるか。	

お願い ■試運転の実施

機能商品（ガスコンロ、水栓、換気扇、食器洗い乾燥機など）は、それぞれの取扱説明書に基づき、必ず試運転の実施をし、確実に作動することを確認してください。

※内装工事が続いて実施されるときは、梱包材などで商品の養生を行ってください。

パナソニック電工株式会社　水廻りシステム事業部
〒571－8686 大阪府門真市大字門真 1048番地

D0911-0